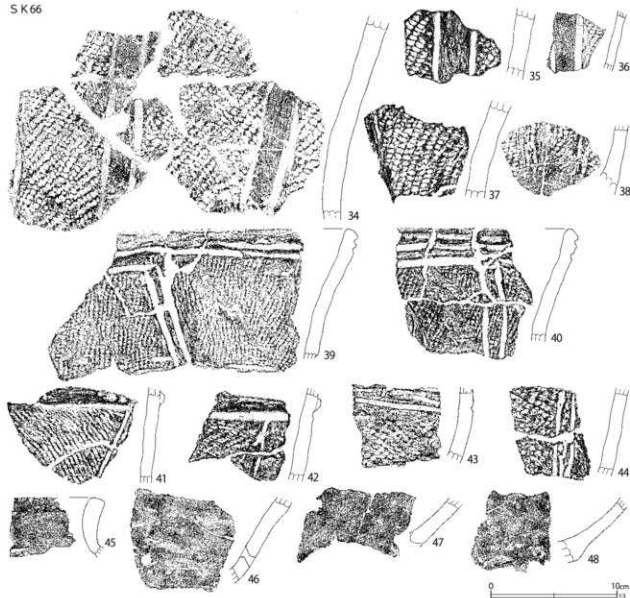




第493図 土壇出土遺物 (11)

第487図38・39はキャリバー形の深鉢形土器で、時期は中期後葉の加曽利EⅠ式期である。

第60号土壇 (第485・488図)

第60号土壇は、U-19・20グリッドに位置する。第61号土壇を壊している。

第488図33・34は加曽利E式系のキャリバー形の深鉢形土器の胴部片である。35は磨石である。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第61号土壇 (第485・488図)

第61号土壇は、U-19・20グリッドに位置する。第60号土壇に壊されている。

第488図36～42は出土した深鉢形土器である。

36～39は加曽利E式系のキャリバー形の土器である。41は連弧文系である。時期は中期後葉の加曽利EⅠ～Ⅱ式期と考えられる。

第63号土壇 (第485・489図)

第63号土壇は、U-14グリッドに位置する。第11号住居跡を壊している。

第489図10は深鉢形土器の胴部小片、11は磨石の破片である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第64号土壇 (第485・489図)

第64号土壇は、U-14グリッドに位置する。土壇内からは第489図Ⅰの深鉢形土器が検出され

た。土器の下からは第489図9の砥石が出土した。

1は胴部から底部が残存している。胴部の括れで上下に区画される。区画は2本沈線を巡らしその間に円形刺突列が施されている。上部の文様は部分的に残るため不明だが、胴下部は逆U字状文とわらび手文が交互に施文されている。文様内には地文が充填される。地文は単節RLの縄文である。底径6.8cm、残存高28.2cmである。第489図2～8は覆土内から検出された深鉢形土器の胴部片である。2には円孔が穿孔されている。時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第66号土壙（第485・486・490～493図）

第66号土壙は、U-14グリッドに位置する。第11号住居跡を壊している。土壙内から土器片が敷かれるように検出された。当初は完形の個体が壊されて敷かれたものと考えていたが、接合を行ったところ完形に還元された土器はなかった。完形に近い第490図1も底部が欠損していた。破損した複数の個体が敷かれたものである。また、加曾利E式系だけでなく、第491図3～5の連弧文系の異系統の土器も混在していた。土器のみで石器や礫は出土していない。

第490～493図は出土した土器である。第490図1、第491図2～6は器形が還元された土器である。

1はキャリパー形の深鉢形土器で、底部を欠損する。口縁は隆帯で渦巻文や区画文が施文される。胴部は2本1組の沈線で磨消懸垂文が、11単位施されている。地文は単節RLの縄文で、口縁は斜め方向に、胴部は縦方向に施文される。口径36.5cm、残存高44.0cmである。

2はキャリパー形の深鉢形土器の口縁から胴部である。口縁は隆帯で楕円区画文が6単位施され、区画文の左端部は渦巻文が施文されている。胴部は括れを境に上部はU字状文、下部はわらび手文と垂下する沈線を組み合わせた懸垂文が施されている。地文は単節LRの縄文が縦から斜め方向に

施文される。口径27.4cm、残存高20.2cmである。

3は連弧文系の深鉢形土器の変形と考えられる。口縁は4単位の緩やかな波状口縁である。文様は3本1組の沈線を多段に横方向に施文される。口縁部の沈線は2本目までは円形刺突列が施される。地文は単節RLの縄文で口唇直下は横方向、他は縦方向に施文される。推定口径34.0cm、残存高23.7cmである。

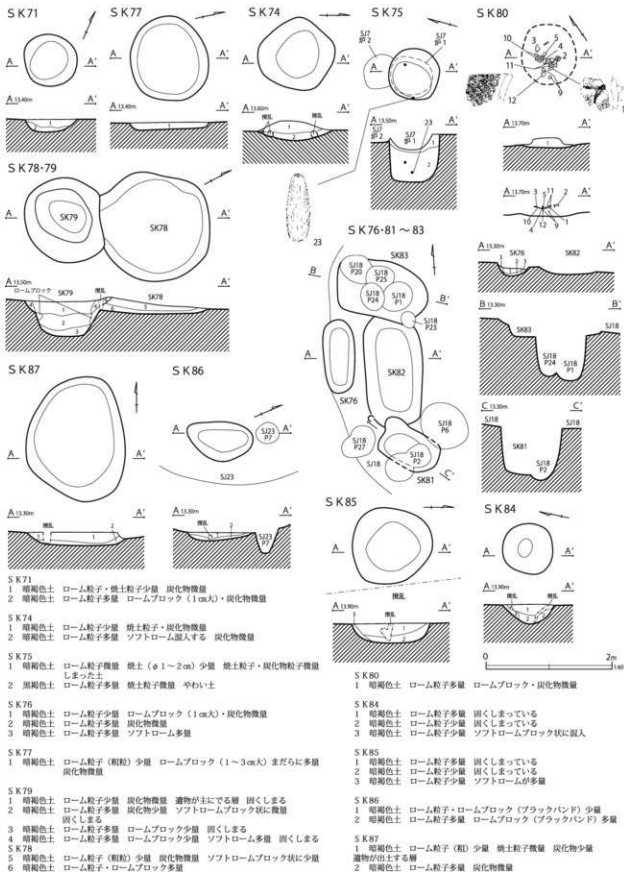
4は連弧文系の深鉢形土器である。口縁から胴部の破片である。口唇下は3本の沈線が巡らされ、沈線内に円形刺突列が施されるが、粗雑で規則性が緩い。胴部は2本1組の磨消縄文で文様が波状に施文される。地文は燃糸文Lが施文される。推定口径31.0cm、残存高12.9cmである。

5は連弧文系の深鉢形土器の口縁から胴部である。胴部の括れから口縁部はバケツ状に直線的に開く器形となっている。文様は基本的に3本1組の沈線で施文される。上部側は連弧文が施され、連弧文の波底部からは沈線が施文され、頸部区画文と連結させている。胴部には2本1組の沈線による懸垂文が垂下される。地文は単節RLの縄文だが、文様の形状に合わせて横、斜め、縦方向に地文が施されている。推定口径30.4cm、残存高20.3cmである。

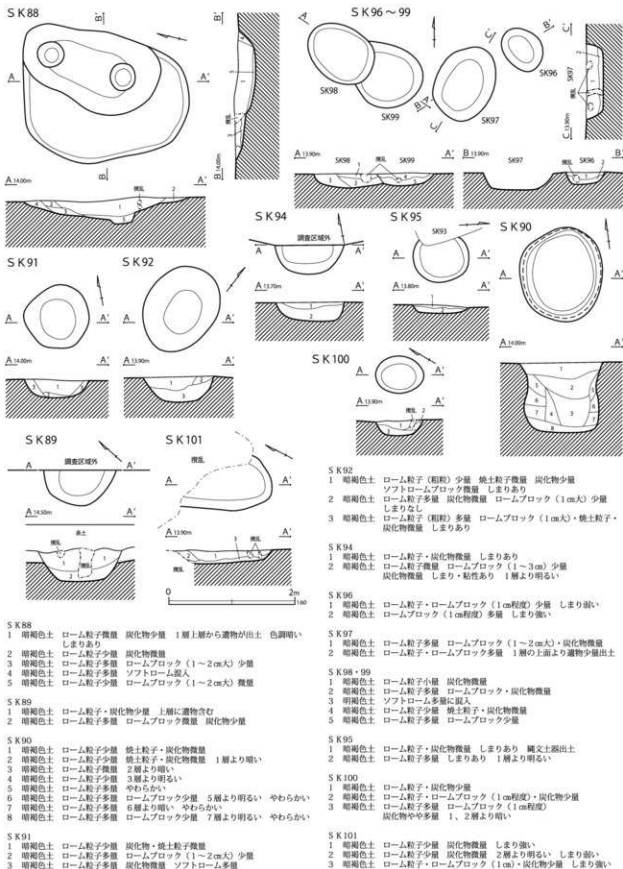
6は浅鉢形土器の胴部から底部である。風化の進みが大きく違い、残りの良い部分と剥落している部分がある。赤彩の痕跡は認められなかった。底径8.2cm、残存高9.2cmである。

第491図7～12、第492図13～33、第493図34～48は出土した土器の破片資料である。7～38・41・42は加曾利E式系のキャリパー形の深鉢形土器である。胴部は磨消懸垂文が施されている。39・40・43・44は連弧文系の深鉢形土器で、39・40・44は同一個体である。45～48は浅鉢形土器である。45の表面には赤彩の痕跡が認められる。46は補修孔が残されている。

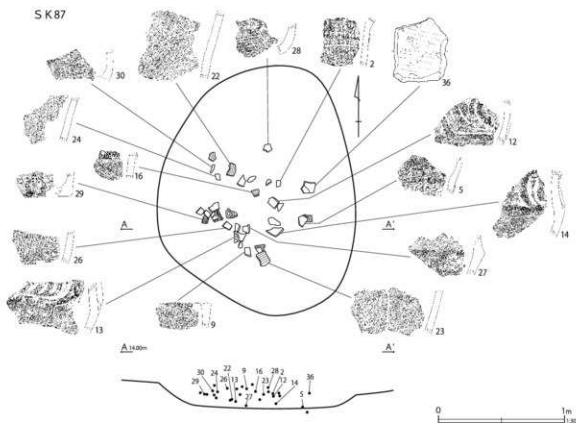
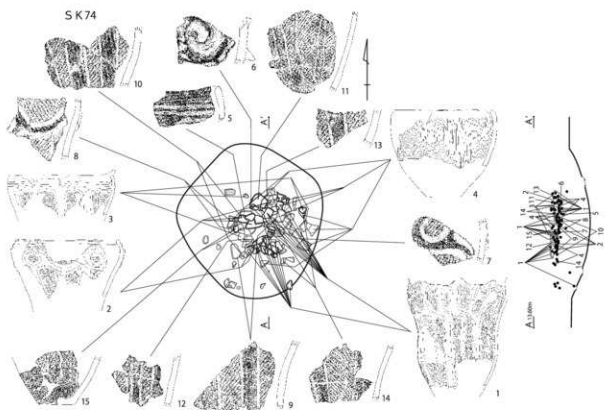
時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。



第494図 土坑 (7)

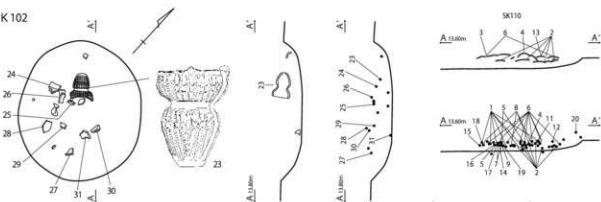


第495図 土坑 (8)

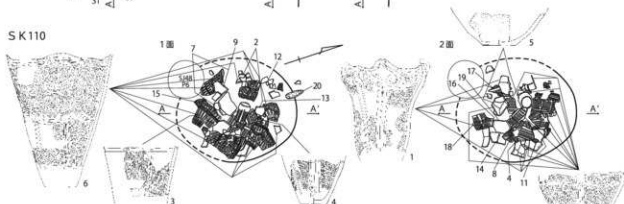


第 496 図 土壊遺物出土状況 (3)

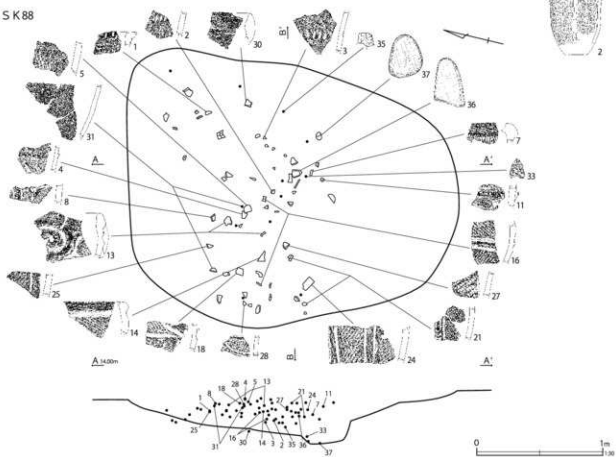
SK102



SK110



SK88



第 497 图 土壙遺物出土状況 (4)

第67号土壇 (第485・489図)

第67号土壇は、T-17グリッドに位置する。

第489図12・13はキャリバー形の深鉢形土器の胴部片である。磨消懸垂文が施されている。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第68号土壇 (第485・489図)

第68号土壇は、V-20グリッドに位置する。第19号住居跡に壊されている。

第489図14～23は出土した土器である。14は勝坂式末葉の深鉢形土器である。15は無文の頸部である。16は胴部に隆帯が貼付されている。17・18は連弧文系の深鉢形土器の口縁部である。19・20は曽利式系の深鉢形土器である。土壇の時期は中期であるが詳細な時期は不明である。

第69号土壇 (第485・498・499図)

第69号土壇は、U-14グリッドに位置する。第11号住居跡の炉を壊している。第66号土壇と同様に土器片が敷かれるように出土した。

第498図1の加曽利EⅡ式の深鉢形土器の他、第499図2の大木式系の深鉢形土器が含まれていた。

1はキャリバー形の深鉢形土器である。同一個体の土器が部分的に出土している。口縁部文様帯はなく、3本の沈線が巡らされている。胴部は2本1組の沈線による磨消懸垂文が施されている。地文は単節RLの縄文で縦方向に施文される。推定口径42.5cm、推定底径5.0cm、推定される器高46.4cmである。

2は大木式系の深鉢形土器で、口縁部は失われている。胴部には大型渦巻文が隆帯で施文され、それに付属させて小渦巻文が複数施される。地文は単節RLの縄文が縦方向に施文される。残存高44.0cmである。

第499図3～13は出土した土器の破片資料である。3～9は加曽利EⅡ式系キャリバー形の深鉢形土器である。胴部は磨消懸垂文が施文される。10・11は連弧文系の深鉢形土器である。

土壇の時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第70号土壇 (第485・500図)

第70号土壇は、T-17グリッドに位置する。第73号土壇を壊している。土壇内からは土器が多量に検出された。

第500図1～48は出土した遺物である。

1・2は器形復元された深鉢形土器である。1は深鉢形土器の胴部から底部である。器面は磨滅している。胴部には懸垂文の1部が残存している。地文は単節LRの縄文である。推定底径5.0cm、残存高8.0cmである。2は底部周辺が残存する。推定底径7.0cm、残存高4.8cmである。

3～46は土器の破片資料である。3～35は加曽利EⅡ式系の深鉢形土器である。3～6は流れ込みと考えられる。土器は口縁部文様帯がなくなり、胴部には磨消懸垂文が施されている。32～34は微隆起線状の隆帯が施文される。46は両耳壺の把手部分である。47・48は出土した石器で47は打製石斧、48は砥石である。

土壇の時期は中期終末の加曽利EⅣ式期である。

第73号土壇 (第485・500図)

第73号土壇は、T-17グリッドに位置する。第70号土壇に壊されている。

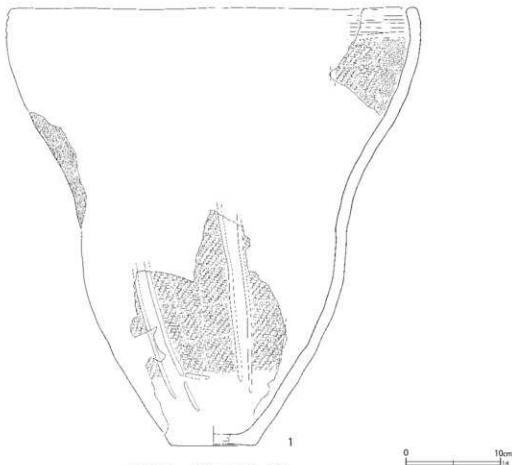
第500図49～52は出土した深鉢形土器の破片である。中期中葉から後葉の土器が混在している。時期は中期である。

第74号土壇 (第494・496・501・502図)

第74号土壇は、U-15グリッドに位置する。土器の破片が敷かれて検出された。

第501図1～4は器形復元が可能であった出土土器である。

1は深鉢形土器で底部が欠損する。大木式系の土器でいわゆる仲平類である。沈線で施される文様は上下2段構成となっている。8単位の波状口縁である。上段の文様は楕円区画文が施文される。波頂部とは連動しないが、1箇所のみ連動しており、その部分は円形区画文が施され、下段の文様



第 498 図 土壙出土遺物 (12)

も上段側にせり出されている。下段の文様は逆U字状文とわらび手文が交互に施文されるが、わらび手が崩れるもの、向きが変わるものなどがある。地文は区画内に施されるが、下段では区画外にも施文されている。地文は単節R Lの縄文である。口径 24.0 cm、残存高 27.3 cmである。

2はキャリパー形の深鉢形土器である。口唇直下に幅広の沈線を巡らし、沈線内に円形刺突列が施される。口縁部文様は波状の隆帯と円形区画文で構成される。胴部は2本1組の沈線による磨消懸垂文が垂下される。地文は単節R Lの縄文で口縁は横方向、胴部は縦方向に施文される。推定口径 27.0 cm、残存高 15.2 cmである。

3は深鉢形土器の口縁から胴部である。器面風化が著しい。口縁部文様はなくなり、狭い無文帯となっている。波状口縁部の破片もあるが、波状の単位数は不明である。胴部と口縁は2本の沈線

を巡らし区画される。胴部は逆U字状文が施され、内側に地文である単節L Rの縄文が縦方向に施文される。推定口径 27.2 cm、残存高 12.2 cmである。

4は鉢形土器の口縁から胴部である。器面は荒れている。地文は条線が施文される。推定口径 25.6 cm、残存高 15.6 cmである。

第 502 図 5 ~ 15 は土器の破片資料で、加曽利 E 式系の深鉢形土器である。5 は口縁部文様が施文されない。胴部には磨消懸垂文が施されている。

土壙の時期は中期末葉の加曽利 E III 式期である。

第 75 号土壙 (第 494・499 図)

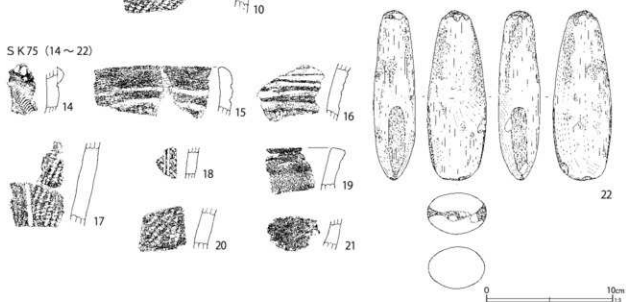
第 75 号土壙は、U-19 グリッドに位置する。第 7 号住居跡の炉に壊されている。円筒状に深く掘り込まれている。

第 499 図 14 ~ 22 は出土した遺物である。13 ~ 21 は土器の小片で流れ込みと考えられる。22

SK69

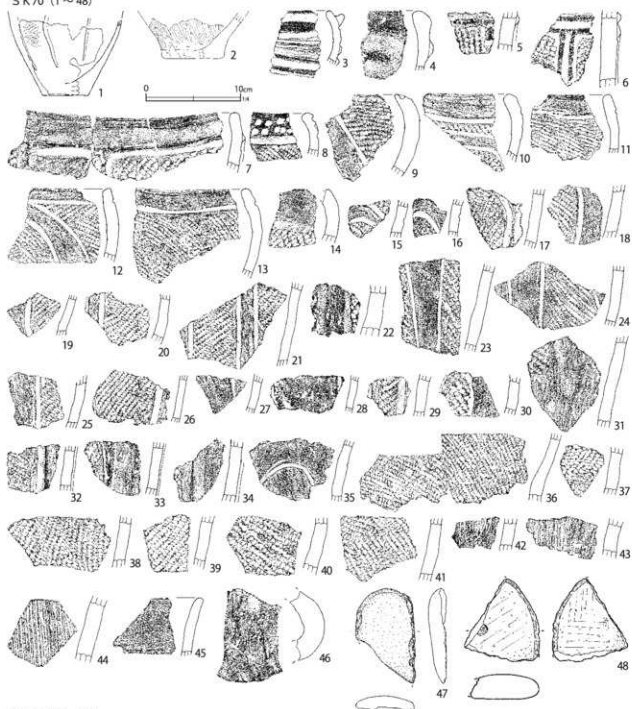


SK75 (14~22)

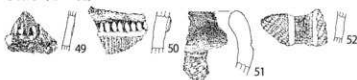


第499図 土壇出土遺物 (13)

S K 70 (1~48)



S K 73 (49~52)

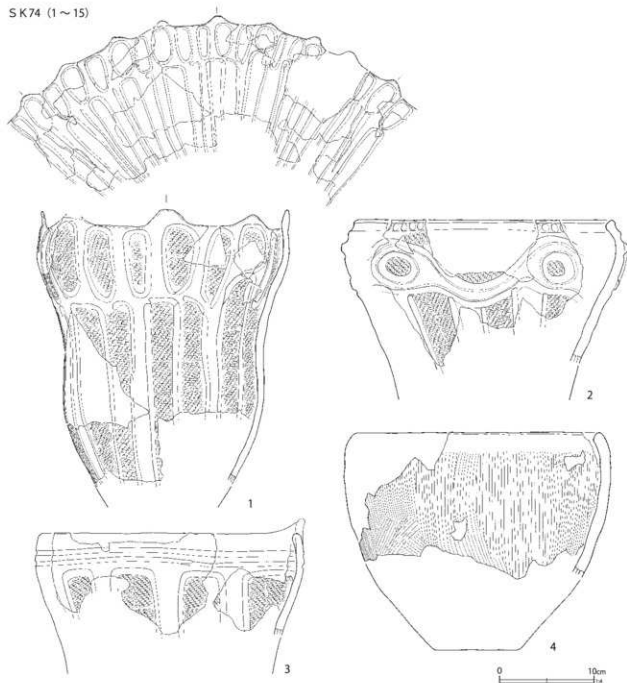


S K 78 (53・54)



第 500 図 土壇出土遺物 (14)

SK74 (1~15)



第501図 土壇出土遺物 (15)

は磨製石斧であるが、側縁が敲打が残されており敲石として再利用された可能性がある。完形のもので、土壇に埋設された可能性がある。土壇の時期は不明である。

第77号土壇 (第494・502図)

第77号土壇は、U-15グリッドに位置する。

第502図16~21は出土した深鉢形土器片である。16~19は勝坂式末葉の土器で、16は阿

玉台式系である。20・21は加曾利E式期の土器である。時期は中期である。

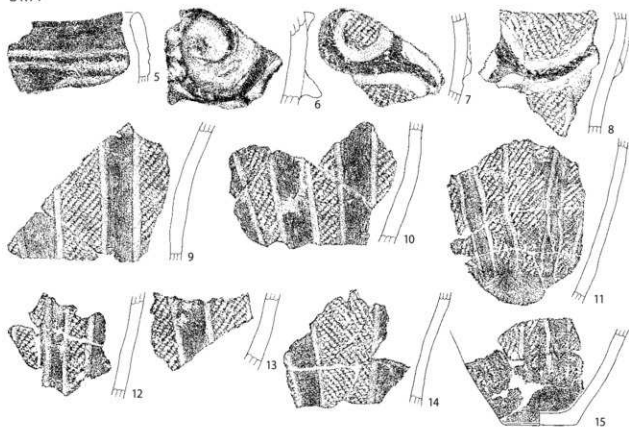
第78号土壇 (第494・500図)

第78号土壇は、T-16グリッドに位置する。第79号土壇に壊されている。

第500図53・54は深鉢形土器片である。54は磨消懸垂文が施されている。

時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

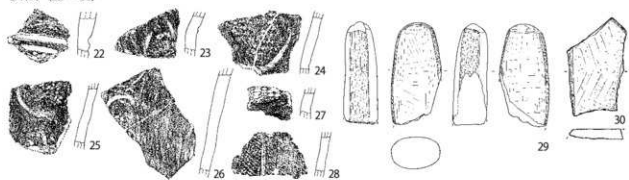
SK74



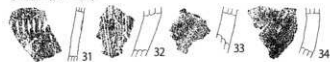
SK77 (16~21)



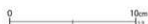
SK79 (22~30)



SK84 (31~34)

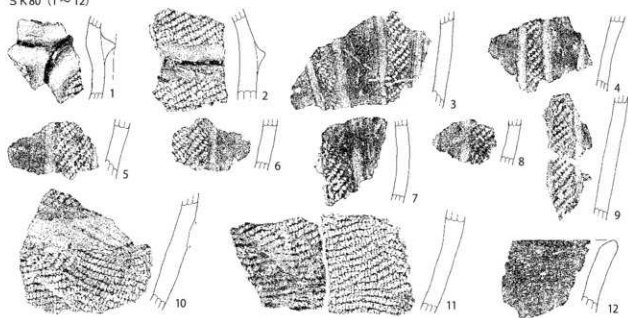


SK86 (35)

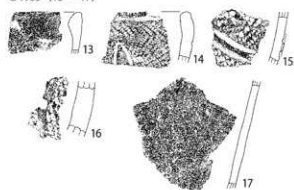


第502図 土坑出土遺物 (16)

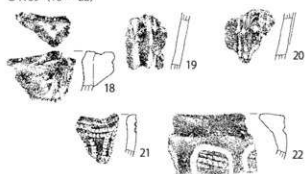
S K 80 (1 ~ 12)



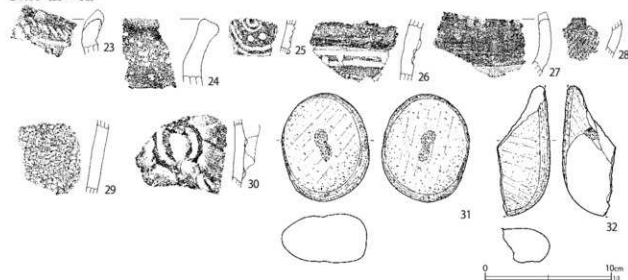
S K 85 (13 ~ 17)



S K 89 (18 ~ 22)

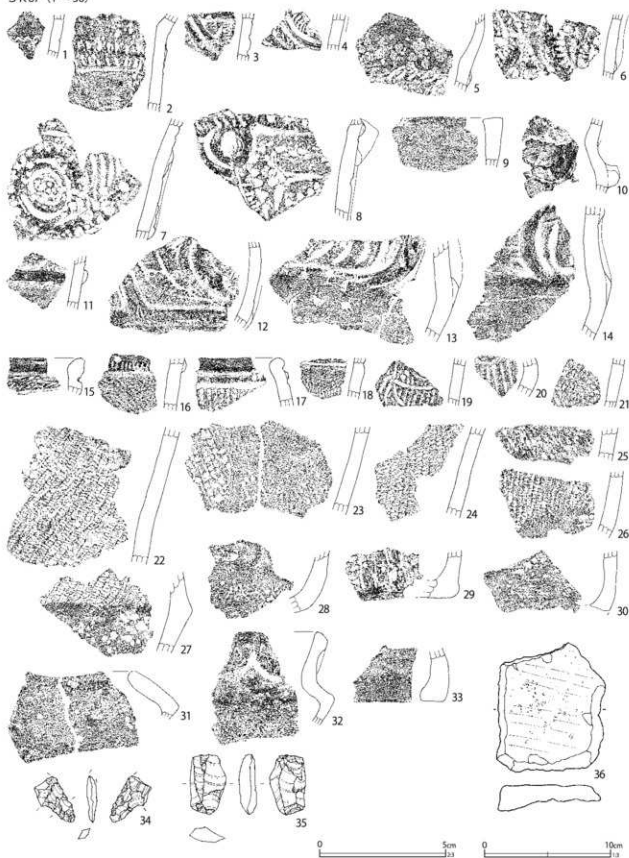


S K 90 (23 ~ 32)



第 503 図 土坑出土遺物 (17)

SK 87 (1~36)

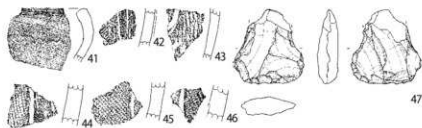


第 504 図 土坑出土遺物 (18)

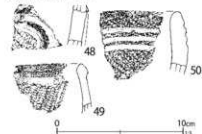
S K 88 (1 ~ 37)



S K 92 (41 ~ 47)



S K 94 (48 ~ 50)

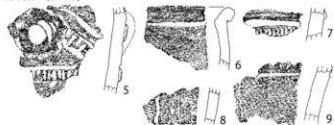


第 505 図 土坑出土遺物 (19)

SK95 (1~4)



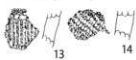
SK97 (5~9)



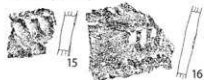
SK98 (10~12)



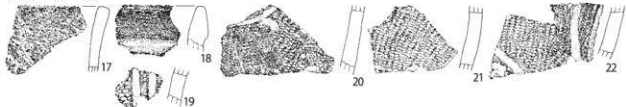
SK99 (13~14)



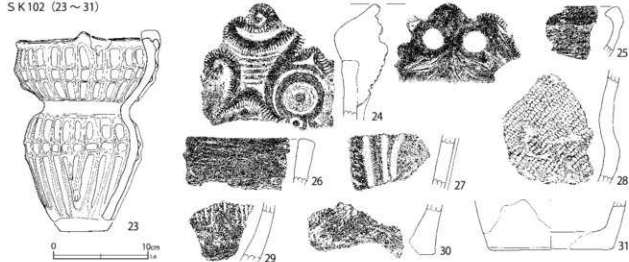
SK100 (15~16)



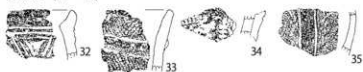
SK101 (17~22)



SK102 (23~31)



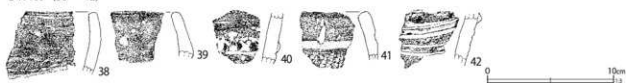
SK104 (32~35)



SK106 (36~37)



SK109 (38~42)



第506図 土坑出土遺物 (20)

第79号土壇 (第494・502図)

第79号土壇は、T-16グリッドに位置する。
第78号土壇を壊している。

第502図22～30は出土した遺物である。22～28は深鉢形土器の破片である。29は磨製石斧である。30は磨石である。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式の新しい時期である。

第80号土壇 (第494・503図)

第80号土壇は、U-16グリッドに位置する。
第503図1～12は出土土器である。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第84号土壇 (第494・502図)

第84号土壇はU・V-19グリッドに位置する。
第502図31～34は出土した深鉢形土器である。
31は阿玉台式系の土器である。時期は中期である。

第85号土壇 (第494・503図)

第85号土壇は、V-19グリッドに位置する。
第503図13～17は出土した深鉢形土器である。
土壇の時期は不明である。

第86号土壇 (第494・502図)

第86号土壇はU・V-16グリッドに位置する。
重複する第23号住居跡と新旧関係は不明である。

第502図35はキャリバー形の深鉢形土器である。
中期後葉の加曽利E式期である。

第87号土壇 (第494・496・504図)

第87号土壇は、W・X-21グリッドに位置する。
土壇内からは多量の遺物が出土したが、敷かれた状況ではなかった。廃棄されたと考えられる。

第504図は出土した遺物である。1～33は土器の破片資料である。17～19の中期後葉の深鉢形土器を除き、中期中葉の勝坂式末葉の土器が一括して出土している。1～16・20～30は深鉢形土器である。1・2は阿玉台式系の土器である。27は底部がそろばん玉状となっている。31・32は浅鉢形土器である。33は器台である。34は石鏃、35はくさび形石器、36は石皿の小片である。土

壇の時期は中期中葉の勝坂式終末期である。

第88号土壇 (第495・497・505図)

第88号土壇は、X・Y-22グリッドに位置する。
第505図1～37は出土した遺物である。1～32は土器の破片資料である。1～12は中期中葉の勝坂式期の深鉢形土器である。6は爪形文に沿って角押文が細かく施文される。新道式である。13～29は中期後葉の加曽利E式期の深鉢形土器である。13～27は加曽利E式系のキャリバー形、28は連弧文系、29は曽利式系の土器である。30～32は浅鉢形土器で、補修孔が穿孔される。33～37は石器・石製品である。33・34は石鏃、35は垂飾、36はスタンプ形石器、37は磨石である。土壇の時期は中期末葉加曽利EⅢ式期である。

第89号土壇 (第495・503図)

第89号土壇は、X-23グリッドに位置する。
第503図18～22は出土した土器片である。
18～20は阿玉台式系の深鉢形土器土器である。21は角押文が施文される新道式である。22は加曽利EⅢ式である。時期は中期である。

第90号土壇 (第495・503図)

第90号土壇は、W-20グリッドに位置する。
フラスコ状に深く掘り込まれている土壇で、貯蔵穴であったと考えられる。第503図23～32は出土した遺物である。23～30は出土した土器片で、中期中葉から後期初頭が混在している。31・32は磨石である。時期は不明である。

第91号土壇 (第495・505図)

第91号土壇はW-20・21グリッドに位置する。
第505図38～40は深鉢形土器の破片で角押文が施文される。新道式である。時期は中期中葉の勝坂式古段階期である。

第92号土壇 (第495・505図)

第92号土壇は、X-22グリッドに位置する。
第505図41～47は出土した遺物である。41～46は深鉢形土器片である。47は打製石斧である。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第94号土壙 (第495・505図)

第94号土壙は、T-18グリッドに位置する。

第505図48～50は出土した深鉢形土器片である。48は隆帯で懸垂文が施文される。50は連弧文系の土器である。時期は中期である。

第95号土壙 (第495・506図)

第95号土壙はU-17・18グリッドに位置する。

第506図1～4は出土した深鉢形土器片である。時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第97号土壙 (第495・506図)

第97号土壙は、U-18グリッドに位置する。

第506図5～9は出土した深鉢形土器片である。5・7は隆帯上に刻みが施文され、8は爪形文が施される。時期は中期中葉の勝坂式終末期である。

第98号土壙 (第495・506図)

第98号土壙は、U-18グリッドに位置する。

第99号土壙に壊されている。

第506図10～12は深鉢形土器片である。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第99号土壙 (第495・506図)

第99号土壙は、U-18グリッドに位置する。

第98号土壙を壊している。

第506図13・14は出土した深鉢形土器の胴部片である。中期後葉の加曾利E式期である。

第100号土壙 (第495・506図)

第100号土壙は、U-17グリッドに位置する。

第506図15・16出土した深鉢形土器の胴部片である。阿玉台式で胎土に金雲母が含まれる。時期は中期中葉の勝坂式新段階期である。

第101号土壙 (第495・506図)

第101号土壙は、U-17グリッドに位置する。

第506図17～22は出土した深鉢形土器の胴部片である。17は勝坂式期と考えられる。18～22は加曾利E式期である。18は口縁部が無文となる。時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第102号土壙 (第497・506・507図)

第102号土壙は、U-17グリッドに位置する。

北よりから第506図23の深鉢形土器がほぼ完形で検出された。底面直上ではなく、やや浮いた状態で出土した。横倒しの状況であった。

第506図23～31は出土した土器である。23は完形の小型の深鉢形土器である。ラジエーター状の浮き彫りの格子目文様が施文される。口縁は小突起が貼付される。器形はキャリパー形に近い。口径14.8cm、底径6.6cm、器高20.0cmである。24～31は覆土内から出土した土器片である。24は内側に眼鏡状突起が貼付されている。突起部分で、隆帯で文様が描かれ、隆帯に沿って沈線が施文され、三叉文や渦巻文が施される。28は底部近くの器形がそろばん玉状となっている。土壙の時期は中期中葉の勝坂式終末期である。

第104号土壙 (第506・507図)

第104号土壙はZ-22・23グリッドに位置する。

第506図32～35は出土した土器片である。32は三角区画文内に印刻状の三叉文が施文される。時期にまともではない。時期は中期である。

第105号土壙 (第507・509図)

第105号土壙は、Y-22グリッドに位置する。第29・30号住居跡に壊されている。

第509図1～8は出土した深鉢形土器片である。1～6は同一個体である。口縁は平縁で、器面には隆帯で捻じり状の貼付文が施文される。隆帯に沿って角押文が施される。新道式である。時期は中期中葉の勝坂式古段階期である。

第106号土壙 (第506・507図)

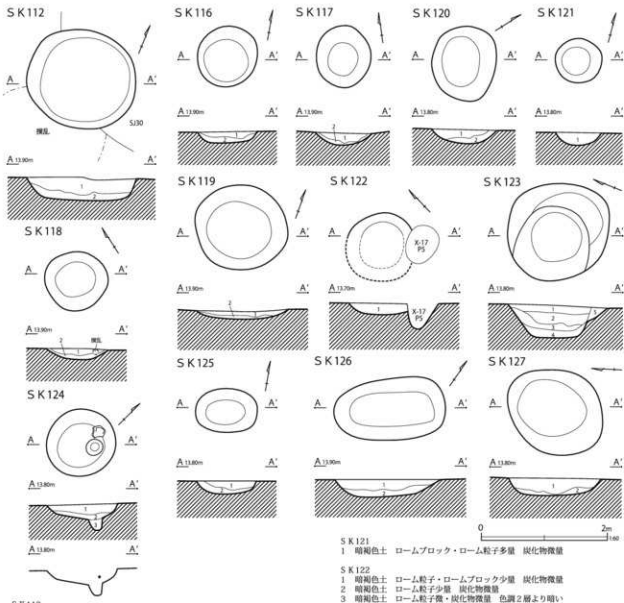
第106号土壙は、Y-22グリッドに位置する。第28・30号住居跡に壊されている。

第506図36・37は出土した深鉢形土器片である。中期後葉の加曾利E式期である。

第109号土壙 (第506・507図)

第109号土壙は、Y-23グリッドに位置する。重複する第28号住居跡と新旧関係は不明である。

第506図38～42は出土した深鉢形土器片である。中期後葉の加曾利E式期である。



- SK113
1 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）少量 ロームブロック微量 炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子微量 炭化物少量

- SK116
1 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック微量 炭化物少量
黒色土ブロック状に凝結する
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量 炭化物微量

- SK117
1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量 黒褐色土ブロック状に含む
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量
※1層中より土器小破片出土

- SK118
1 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量 1層上面より遺物出土
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ソフトロームブロック状に多量

- SK119
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量 炭化物微量
※1層中より遺物少量出土

- SK120
1 黒褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量
2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

- SK121
1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子多量 炭化物微量

- SK122
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 炭化物微量
2 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量
3 暗褐色土 ローム粒子微・炭化物微量 色調2層より暗い

- SK123
1 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物多量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子微量 炭化物少量
3 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量 色調1、2層より明るい
4 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物少量 ソフトロームブロック多量
色調1～3層より明るい
5 暗褐色土 ローム粒子少量 ソフトロームブロック多量
色調1～3層より明るい

- SK124
1 暗褐色土 ローム粒子少量
2 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック多量
3 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量

- SK125
1 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物微量
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 色調1、3層より明るい
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

- SK126
1 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子微量 炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 色調1層より暗い
※遺物は1層下面より土器片が北東端から出土

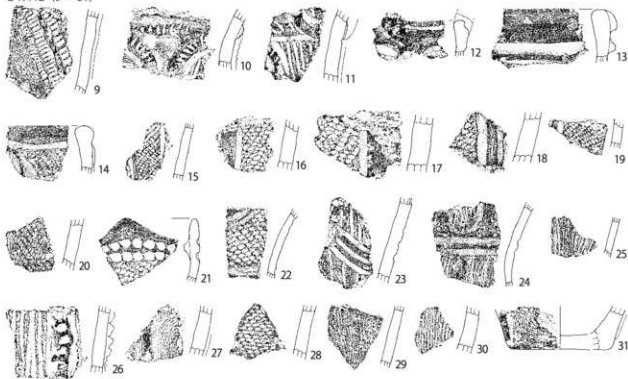
- SK127
1 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物微量
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

第508図 土壌 (10)

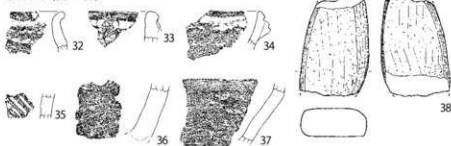
SK105 (1~8)



SK112 (9~31)



SK114 (32~38)

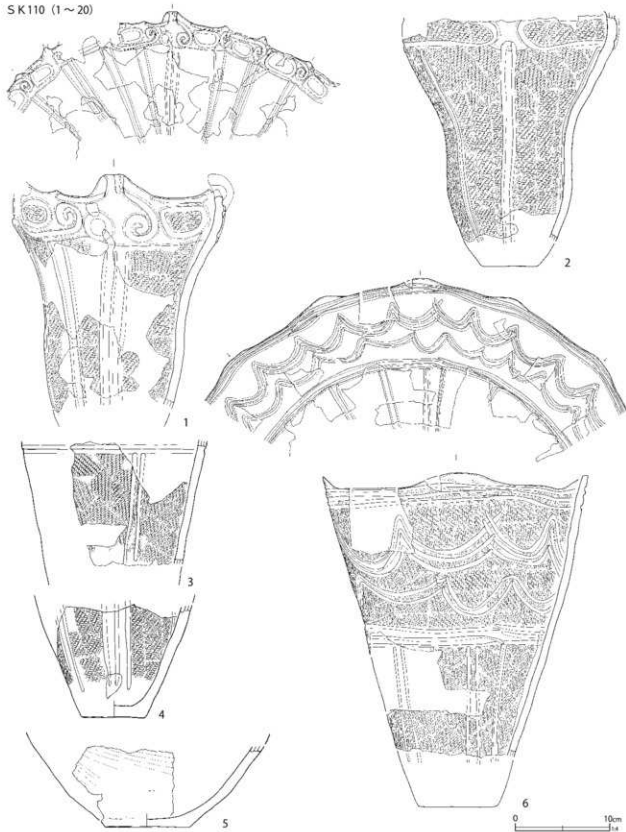


SK115 (39)



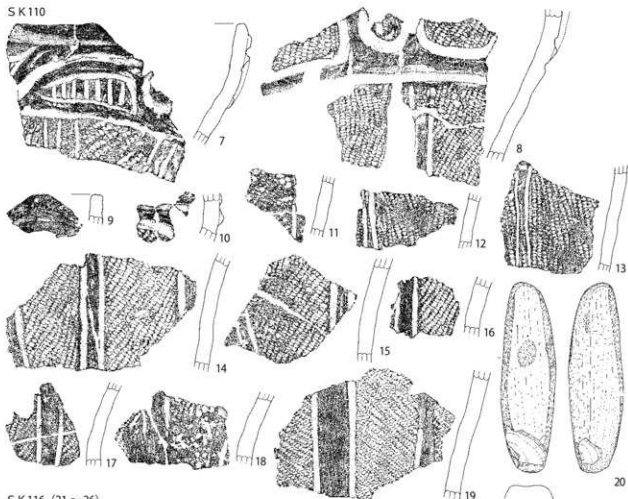
第509図 土壇出土遺物 (21)

SK110 (1~20)



第510図 土壙出土遺物 (22)

SK110



SK116 (21~26)



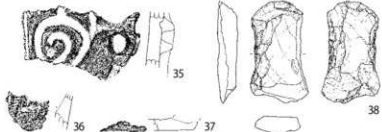
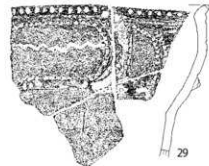
SK117 (27~28)



SK119 (30~38)

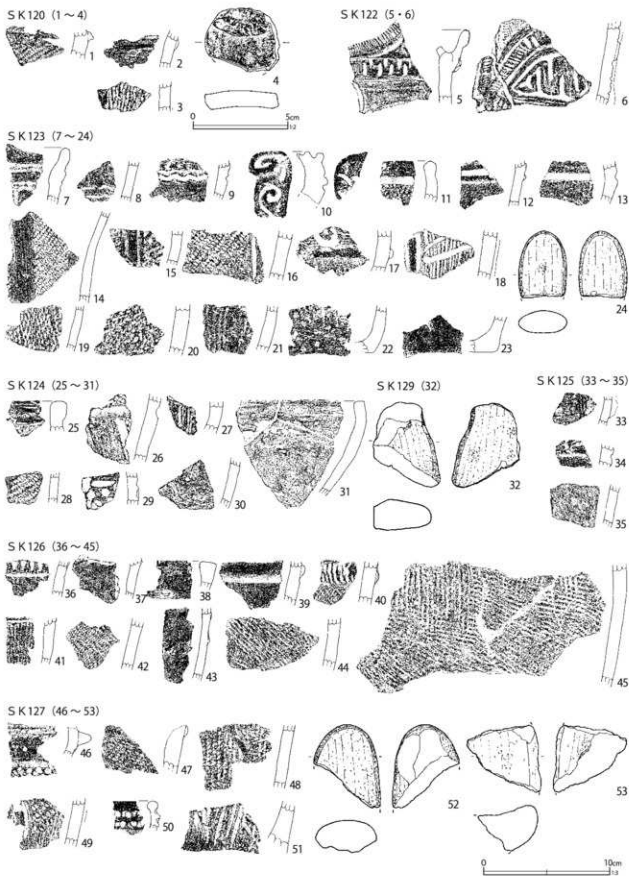


SK118 (29)



0 10cm

第511図 土壇出土遺物 (23)



第512図 土壙出土遺物 (24)

第110号土壇 (第497・507・510・511図)

第110号土壇は、V-19グリッドに位置する。第48号住居跡を壊している。土器が敷かれた状態で検出された。北側に蔽石が1点離れて出土している。

第510・511図は出土した土器である。複数の土器片が敷かれている。完形に復元できたものはなかった。

第510図1～6は器形が復元できた土器である。

1はキャリバー形の深鉢形土器で、底部が欠損する。波状口縁で橋状把手が貼付される。橋状把手が3単位、小突起が4単位口縁に貼付されている。口縁部文様は隆帯で渦巻文と楕円区画文が施されている。胴部文様は橋状把手下に3本1組、小突起下に2本1組の沈線による磨消懸垂文が垂下されている。地文は単節RLの縄文である。口径21.0cm、残存高25.1cmである。

2はキャリバー形の深鉢形土器で、口唇部欠損と底部を欠損する。口縁部は3単位の楕円区画文が施される。胴部は幅の狭い逆U字状文が6単位施文されている。地文は単節RLの縄文である。残存高24.4cmである。

3はキャリバー形の深鉢形土器で、胴部のみが残存している。胴部には2本1組の沈線が垂下され懸垂文が施されている。地文は単節RLの縄文で一部横方向や縦方向に施文するが、大部分は条が縦方向に見えるよう斜め方向に施される。残存高13.2cmである。

4はキャリバー形の深鉢形土器で、胴部から底部が残存している。胴部は沈線による磨消懸垂文が6単施文される。1箇所は3本、他は2本で懸垂文が施されている。地文は単節RLの縄文を縦方向に施文する。底径6.6cm、残存高10cmである。

5は浅鉢形土器の胴部から底部である。器面荒れている。底径9.0cm、残存高8.6cmである。

6は連弧文系の深鉢形土器である。底部を欠損する。4単位の緩やかな波状口縁を持っている。

器形はバケツ状である。文様は上下に分けられている。上部は2段の連弧文が8単位施される。上段は3本1組、下段は2本組の沈線で文様が施文される。下部は2本1組の沈線を垂下させる懸垂文が施される。不明な場所もあり単位は不明である。地文は単節RLの縄文で、横や斜め方向に施文される。口径28.0cm、残存高30.0cmである。

第511図7～19は土器の破片資料である。加曽利E式系のキャリバー形の深鉢形土器である。

第511図20は完形の蔽石である。側縁と表面に蔽打痕が顕著に認められる。

時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第112号土壇 (第508・509図)

第112号土壇は、Z-22グリッドに位置する。第30号住居跡に壊されている。

第509図9～31は出土した土器の破片資料である。9～11は中期中葉勝坂式期の深鉢形土器である。12～27・31は中期後葉加曽利E式期の深鉢形土器である。12～20・31は加曽利E式系のキャリバー形の土器である。21～24は連弧文系で25～27は曾利式系の土器である。28～30は地文のみが施文される深鉢形土器の胴部片である。

時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第114号土壇 (第507・509図)

第114号土壇は、V-18グリッドに位置する。第48号住居跡に壊されている。第115号土壇を壊している。

第509図32～38は出土した遺物である。32～37は土器片で、32～36は深鉢形土器、37は浅鉢形土器である。38は磨石である。中期である。

第115号土壇 (第507・509図)

第115号土壇は、V-18グリッドに位置する。第48号住居跡・第114号土壇に壊されている。

第509図39は出土した無文の深鉢形土器の胴部片である。時期は中期である。

第116号土壇 (第508・511図)

第116号土壇は、W-16グリッドに位置する。

第511図21～26は出土した深鉢形土器片である。21～23は中期中葉勝坂式期、24・25は中期後葉の加曾利E式期である。詳細な時期は特定できないが中期である。

第117号土壙 (第508・511図)

第117号土壙は、W-16グリッドに位置する。

第511図27・28は出土した深鉢形土器片である。27は角押文が施文される。28は阿玉台式系の土器である。時期は中期中葉の勝坂式期である。

第118号土壙 (第508・511図)

第118号土壙は、W-16グリッドに位置する。

第511図29は出土した深鉢形土器片である。阿玉台式と勝坂式の折衷的な土器である。口縁部は楕円区画文が隆帯によって施文され、それに沿って角押文が施されている。時期は中期中葉の勝坂式中段階期である。

第119号土壙 (第508・511図)

第119号土壙は、W-16グリッドに位置する。

第511図30～37は出土した深鉢形土器片である。30～33は阿玉台式系の土器である。34は細かい角押文が施される。新道式である。35・36は勝坂式末葉である。第511図38は打製石斧である。時期は中期中葉の勝坂式終末期である。

第120号土壙 (第508・512図)

第120号土壙は、X-16グリッドに位置する。

第512図1～4は出土した遺物である。1～3はキャリパー形の深鉢形土器片である。4は土製円盤で、隆帯が器面に残存している。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第122号土壙 (第508・512図)

第122号土壙は、X-16・17グリッドに位置する。

第512図5・6は出土した深鉢形土器片である。時期は中期中葉の勝坂式終末期である。

第123号土壙 (第508・512図)

第123号土壙は、X-17グリッドに位置する。

第512図7～24は出土した遺物である。7

～10は中期中葉勝坂式期の深鉢形土器片である。11～18は中期後葉加曾利E式期の深鉢形土器片である。19～23は地文のみが施文される深鉢形土器片である。24は磨石である。主体となる土器から時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第124号土壙 (第508・512図)

第124号土壙は、X-17グリッドに位置する。

第512図25～31は出土した遺物である。25～30は深鉢形土器の小片である。31は浅鉢形土器片である。25～27から、時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第125号土壙 (第508・512図)

第125号土壙は、X-16グリッドに位置する。

第512図33～35は深鉢形土器の小片である。33は阿玉台式系の土器である。時期は中期である。

第126号土壙 (第508・512図)

第126号土壙は、W-16グリッドに位置する。

第512図36～45は出土した深鉢形土器片で、時期は中期中葉の勝坂式期と考えられる。

第127号土壙 (第508・512図)

第127号土壙は、X-17グリッドに位置する。

第512図46～53は出土した遺物である。46～51は深鉢形土器片である。46～49は加曾利E式系のキャリパー形で、50は連弧文系、51は曾利式系の土器である。52は磨石、53は石皿の破片である。時期は中期後葉の加曾利EⅡ式期と考えられる。

第128号土壙 (第513・515図)

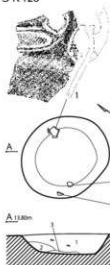
第128号土壙は、X-16グリッドに位置する。

第513図1が北側から出土している。第515図1～7は出土した遺物である。1～5は深鉢形土器片である。1～3はキャリパー形の深鉢形土器である。4は曾利式系である。6は磨石、7はスタンプ形石器である。時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

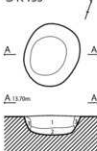
第129号土壙 (第512・513図)

第129号土壙は、W-17グリッドに位置する。

S K 128



S K 135



S K 128

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子微量 炭化物少量 縄文土面片が出土
2 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量 ソフトロームブロック多量
色調1層より明るい
3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

S K 129

- 1 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）少量 炭化物微量 黒色土混入
1層内より遺物少量出土
2 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック少量 炭化物微量

S K 130

- 1 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）少量 炭化物・焼土粒子微量
2 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック少量
※1層内から土器片ごく少量出土

S K 131

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物微量 縄文土面片が出土
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック多量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロックごく多量 炭化物少量

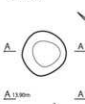
S K 132

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック微量 炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量 炭化物微量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 ソフトローム多量に混入

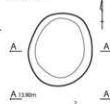
S K 133

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 ソフトローム混入

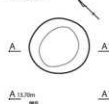
S K 129



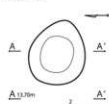
S K 130



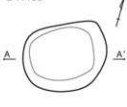
S K 131



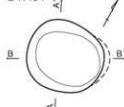
S K 132



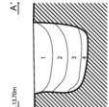
S K 133



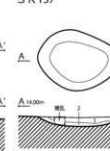
S K 134



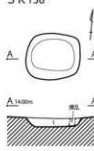
S K 139



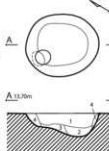
S K 137



S K 138



S K 139



S K 134

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ソフトロームがブロック状に少量混入
炭化物微量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・炭化物微量
4 暗褐色土 ローム粒子多量 ソフトローム多量に混入 炭化物微量

S K 135

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ソフトロームブロック状に多量 炭化物微量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量 ソフトローム多量に混入

S K 136

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・炭化物微量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 ソフトローム多量に混入 炭化物微量

S K 137

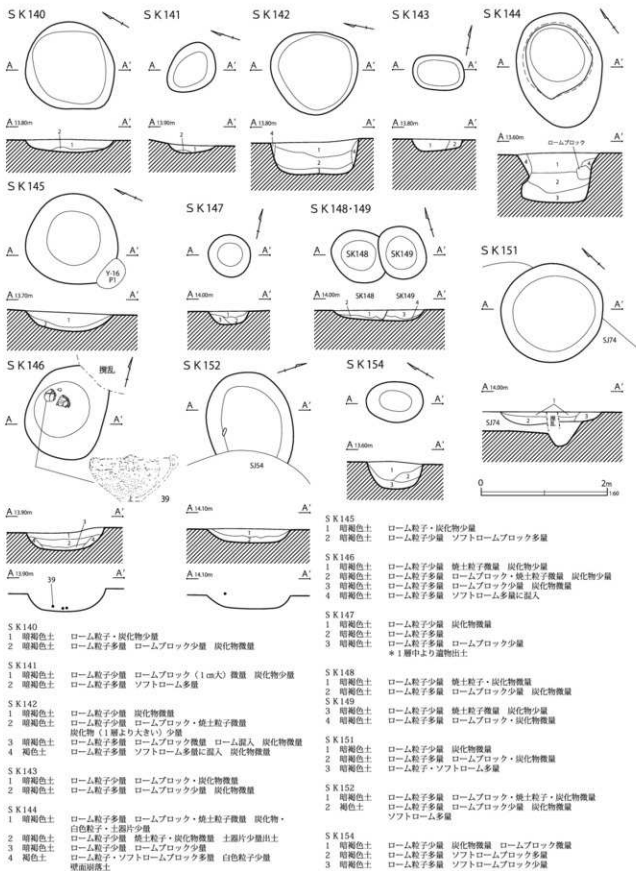
- 1 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック・焼土粒子微量 炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量 炭化物微量

S K 138

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック不均一に少量 炭化物微量

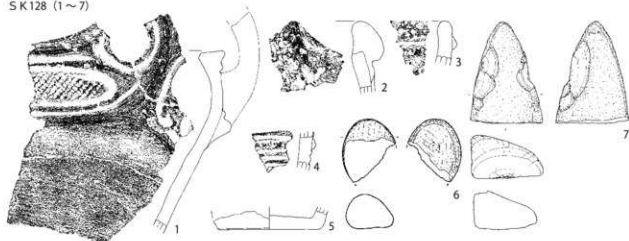
S K 139

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物微量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物微量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 ソフトロームブロック状に少量混入
4 暗褐色土 ローム粒子・ソフトローム多量



第514図 土坑 (12)

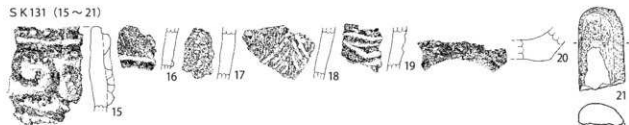
SK128 (1~7)



SK130 (8~14)



SK131 (15~21)



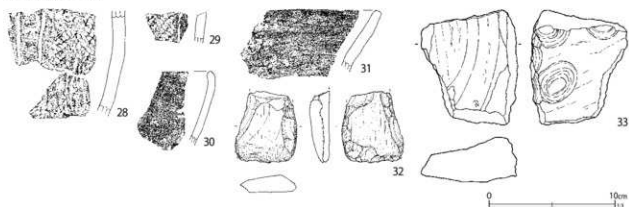
SK133 (22~25)



SK135 (26~27)



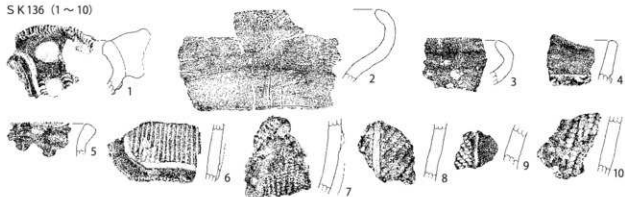
SK134 (28~33)



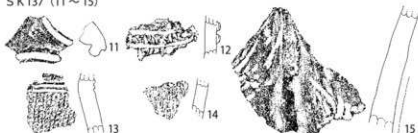
0 10cm

第515図 土壌出土遺物 (25)

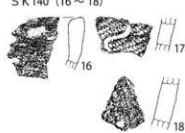
SK136 (1~10)



SK137 (11~15)



SK140 (16~18)



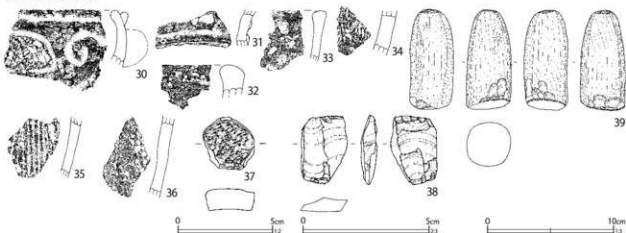
SK138 (19~24)



SK139 (25~29)

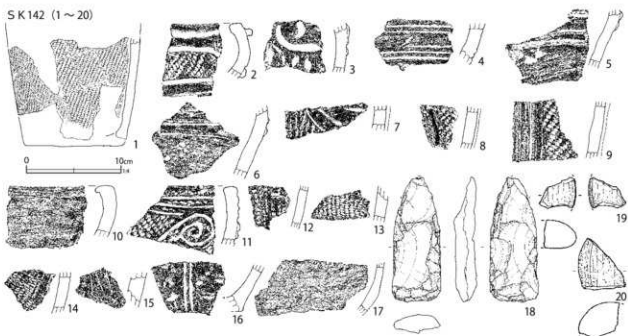


SK145 (30~39)

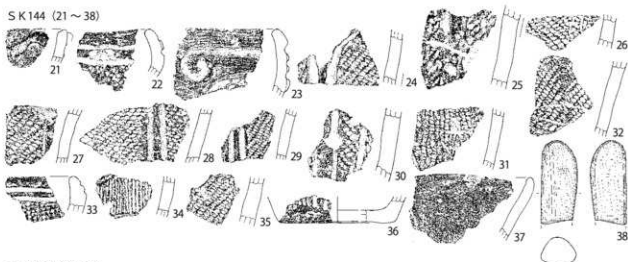


第516図 土坑出土遺物 (26)

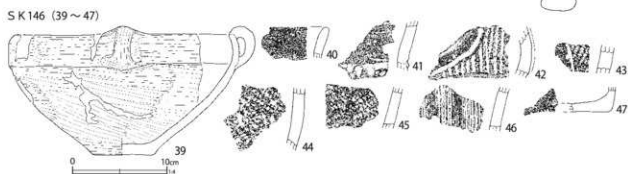
SK 142 (1~20)



SK 144 (21~38)



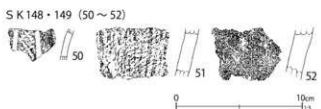
SK 146 (39~47)



SK 143 (48~49)



SK 148・149 (50~52)



第 517 図 土坑出土遺物 (27)

第513図32は出土した磨石の破片である。

第130号土壙 (第513・515図)

第130号土壙は、W-17グリッドに位置する。

第515図8～14は出土した深鉢形土器片である。時期は中期中葉の勝坂式終末期である。

第131号土壙 (第513・515図)

第131号土壙は、Y-16グリッドに位置する。

第515図15～21は出土した遺物である。15～20は深鉢形土器片である。15の文様は加曾利E式だが、器形がバケツ状である。18・19は連弧文系の土器である。21は磨石である。時期は中期後葉の加曾利EⅡ式期である。

第133号土壙 (第513・515図)

第133号土壙は、Y-17グリッドに位置する。

第515図22～25は出土した土器片である。22～24はキャリバー形の深鉢形土器で、25は浅鉢形土器である。時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第134号土壙 (第513・515図)

第134号土壙はY-16・17グリッドに位置する。

第515図28～33は出土した遺物である。28・29はキャリバー形の深鉢形土器で、30・31は浅鉢形土器である。32は打製石斧で、33は石皿である。いずれも破片であった。時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第135号土壙 (第513・515図)

第135号土壙は、Y-17グリッドに位置する。

第515図26・27は出土した深鉢形土器片である。地文のみが施文される。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第136号土壙 (第513・516図)

第136号土壙は、X-20グリッドに位置する。

第516図1～10は出土した深鉢形土器片である。1～7は勝坂式末葉、8～10は加曾利EⅢ式である。時期は中期中葉の勝坂式終末期である。

第137号土壙 (第513・516図)

第137号土壙は、X-20グリッドに位置する。

第516図11～15は出土した深鉢形土器片である。11・13は加曾利E式系、12・15は曾利式系である。15は地文として短沈線が施文される。

時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第138号土壙 (第513・516図)

第138号土壙は、X-20グリッドに位置する。

第516図19～24は出土した遺物である。19～23は深鉢形土器の小片である。19・20は勝坂式末葉、21～23は加曾利E式系のキャリバー形の土器である。24はスクレイパーである。詳細な時期は確定できないが、中期である。

第139号土壙 (第513・516図)

第139号土壙は、X-17グリッドに位置する。重複する第63号住居跡と新旧関係は不明である。

第516図25～29は出土した遺物である。25～28は深鉢形土器の小片で、25・26は勝坂式末葉の土器である。27・28は地文のみが残る。29は軽石である。時期は中期と考えられる。

第140号土壙 (第514・516図)

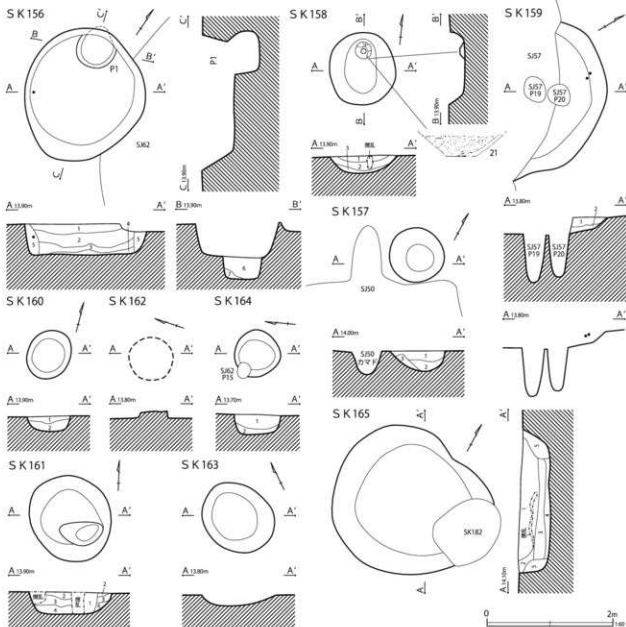
第140号土壙は、X-17グリッドに位置する。重複する第63号住居跡と新旧関係は不明である。

第516図16～18は出土した深鉢形土器片である。17は沈線と蛇行懸垂文が施文される。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第142号土壙 (第514・517図)

第142号土壙は、X-17グリッドに位置する。第63号住居跡と新旧関係は不明である。円筒状に深く掘り込まれている。

第517図1～20は出土した遺物である。1は器形復元した深鉢形土器の胴部である。地文として単節RLの縄文が斜め方向に施される。残存高10.8cmである。2～17は土器の破片資料である。2～16は深鉢形土器で、4は勝坂式で他は加曾利E式期である。17は浅鉢形土器で内面に赤彩の痕跡が認められた。18はほぼ完形の打製石斧である。19・20は磨石の破片である。時期は中期後葉の加曾利EⅠ式期である。



- SK 156
 1 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化物微量
 2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック微量 焼土粒子・炭化物少量
 3 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量 炭化物微量
 4 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック・炭化物微量
 5 暗炭褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
 ビット
 6 暗褐色土 (粗粒) 多量 ロームブロック (1~2cm大) 微量
 炭化物少量
 7 暗褐色土 ローム粒子多量

- SK 157
 1 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量
 2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量 炭化物微量
 3 暗炭褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

- SK 158
 1 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・炭化物微量
 3 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量
 4 暗褐色土 ローム粒子少量で均質な土

- SK 159
 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・炭化物微量

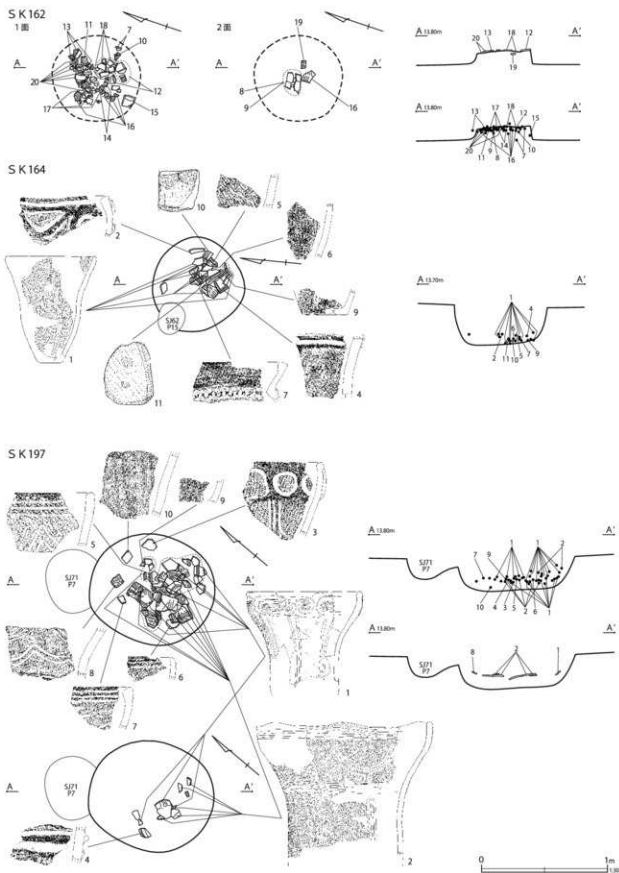
- SK 160
 1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 炭化物微量
 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量 炭化物少量

- SK 161
 1 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化物微量 色調やや暗い
 2 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量
 3 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・炭化物少量
 4 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック多量

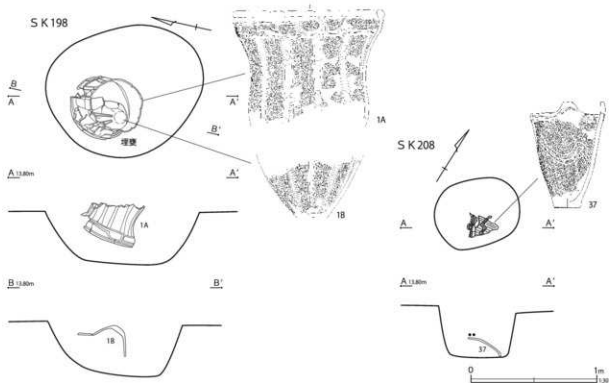
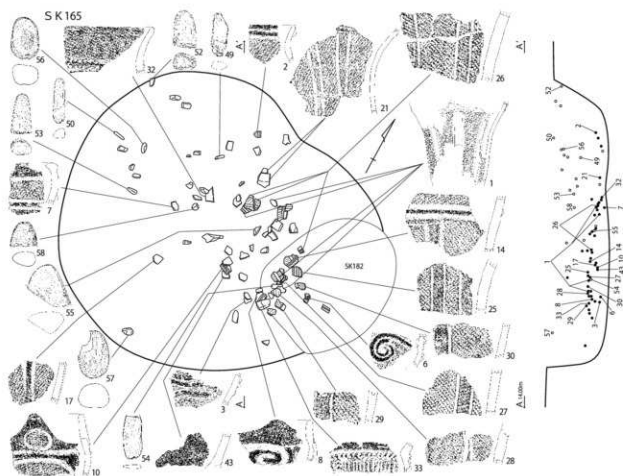
- SK 164
 1 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 ロームブロック微量 焼土粒子
 炭化物少量
 2 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 ロームブロック・炭化物少量
 * 2層から遺物出土 1層は一挙に掘め戻し

- SK 165
 1 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物少量 (黒色強い)
 2 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物少量
 3 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック (1cm大)・焼土粒子微量
 炭化物少量
 4 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量
 5 暗炭褐色土 ロームブロック少量 ソフトローム主体
 * 1層と3層から遺物出土 特に3層中に集中して出土

第518図 土坑 (13)



第 520 図 土壌遺物出土状況 (5)



第 521 図 土墳遺物出土状況 (6)

第143号土壇 (第514・517図)

第143号土壇は、W-17グリッドに位置する。

第517図48・49は出土した深鉢形土器の胴部片である。48は沈線で懸垂文が施されている。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第144号土壇 (第514・517図)

第144号土壇は、Z-17グリッドに位置する。フラスコ状に深く掘り込まれている。

第517図21～38は出土した遺物である。覆土内から一括して検出された。21～37は土器の破片資料である。21～36は深鉢形土器である。21～32は加曽利E式系のキャリバー形の土器である。27～30の胴部には磨消懸垂文が施されている。33・34は連弧文系の土器である。37は浅鉢形土器である。38は敲石である。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期と考えられる。

第145号土壇 (第514・516図)

第145号土壇は、Y-16グリッドに位置する。

第516図30～39は出土した遺物である。30～36は深鉢形土器片である。30・31はキャリバー形の土器である。37は土製円盤で深鉢形土器片を加工する。38はくさび形石器、39は敲石である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第146号土壇 (第514・517図)

第146号土壇は、W・X-17グリッドに位置する。北側から第517図39の両耳壺が出土した。

39は口縁に橋状の把手が貼付される。器面調整で光沢を持つように仕上げられている。口縁は無文で段をつけて胴部と区画される。把手内側や器面の一部に赤彩の痕跡が認められる。口径13.2cm、底径6.5cm、器高13.7cmである。第517図40～47は覆土内から出土した深鉢形土器片である。時期は中期末葉と考えられる。

第147号土壇 (第514・522図)

第147号土壇は、X-20グリッドに位置する。

第522図1～4は出土した土器片である。1は加曽利E式系のキャリバー形の深鉢形土器で、

2は勝坂式末葉の深鉢形土器の口縁である。3・4は浅鉢形土器の胴部である。詳細な時期は不明であるが、中期と考えられる。

第148・149号土壇 (第514・517図)

第148・149号土壇は、X-20グリッドに位置する。重複して検出された。第148号土壇が第149号土壇を壊している。

第517図50～52は覆土内から一括して出土した深鉢形土器片である。50は磨消懸垂文が施される。51は沈線で懸垂文が施文される。時期は中期後葉の加曽利E式期と考えられる。

第151号土壇 (第514・522図)

第151号土壇は、Y-20グリッドに位置する。第74号住居跡を壊している。

第522図6～12は出土した土器片である。6～11は深鉢形土器である。6～8は小型でミニチュアに近い土器である。6はバケツ状の器形である。12は浅鉢形土器の肩部である。時期は中期後葉の加曽利EⅠ式期と考えられる。

第152号土壇 (第514・522図)

第152号土壇は、X-20グリッドに位置する。第54号住居跡を壊している。

第522図13～19は出土した遺物である。13～18は深鉢形土器片である。13・14・18は勝坂式末葉の土器で、第54住居跡の流れ込みと考えられる。15～18は加曽利E式期である。19は打製石斧である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第154号土壇 (第514・522図)

第154号土壇は、AA-18グリッドに位置する。

第522図5は出土した深鉢形土器の胴部片である。時期は中期中葉の勝坂式期と考えられる。

第156号土壇 (第518・523図)

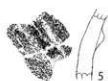
第156号土壇は、W-17グリッドに位置する。壁の一部が第62号住居跡に壊されている。

第523図は出土した遺物である。35の土製耳飾が出土しているが、1個のみである。土壇の形状から土壇墓の可能性が考えられる。1はキャリバ

SK147 (1~4)



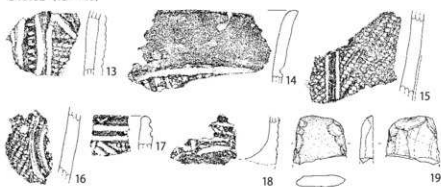
SK154 (5)



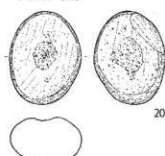
SK151 (6~12)



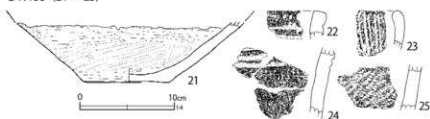
SK152 (13~19)



SK157 (20)



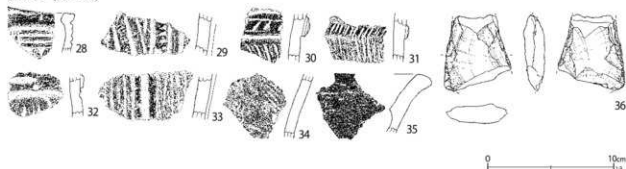
SK158 (21~25)



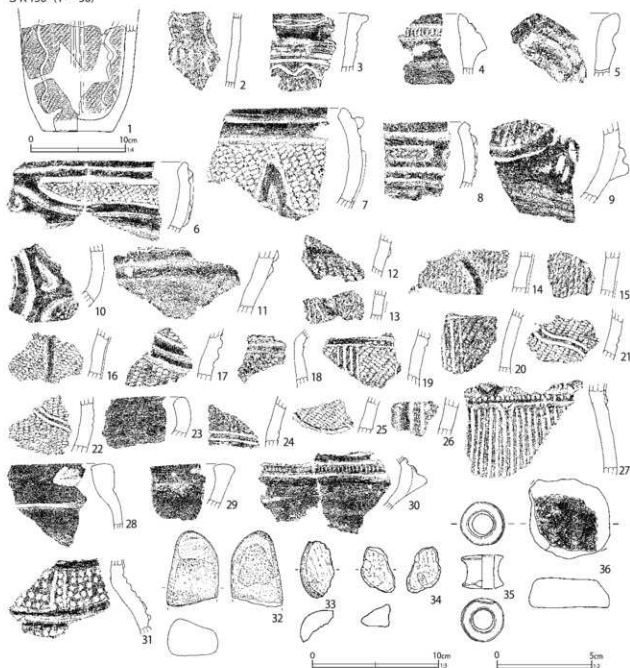
SK160 (26・27)



SK159 (28~36)



第 522 図 土坑出土遺物 (28)



第523図 土壇出土遺物 (29)

一形の深鉢形土器で、胴部から底部が残存している。胴部には3本1組の沈線による垂下する懸垂文と1本沈線による蛇行懸垂文が交互に施される。地文は単節RLの縄文で縦方向に施文される。底径7.2cm、残存高11.4cmである。2~27は深鉢形土器である。2~5は中期中葉の勝坂式期で、6~27は中期後葉の加曾利E式期である。28~30は浅鉢形土器、31は壺形土器である。赤彩は認

められなかった。32は敲石、33は磨石、34は軽石である。35は環状に作られた土製耳飾で、鼓状の形状である。36は土製円盤である。時期は中期後葉の加曾利E I式期である。

第157号土壇 (第518・522図)

第157号土壇は、Y-20グリッドに位置する。第522図は出土した磨石である。他に遺物はなく時期は不明である。

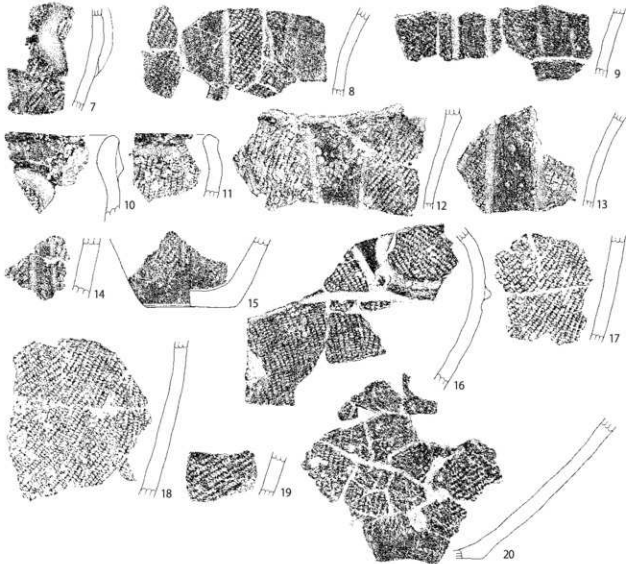
SK161 (1~3)



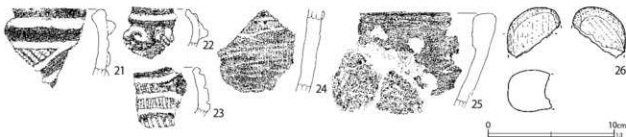
SK169 (4~6)



SK162 (7~20)



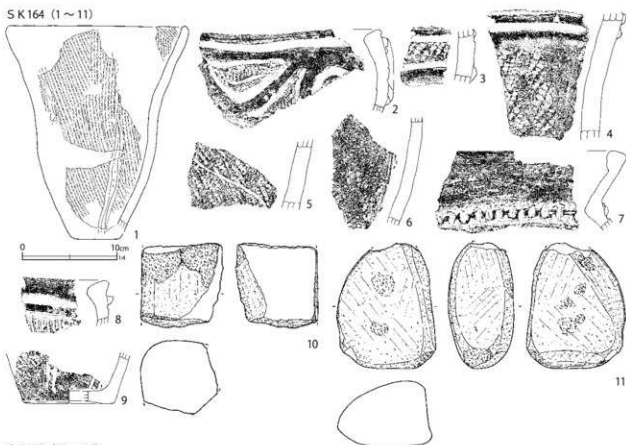
SK166 (21~26)



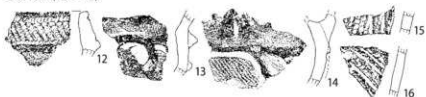
0 10cm
1:1

第524図 土坑出土遺物 (30)

SK164 (1~11)



SK167 (12~16)



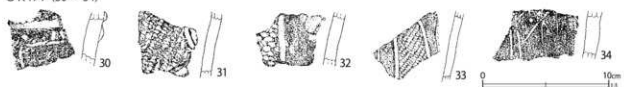
SK173 (17)



SK168 (18~29)

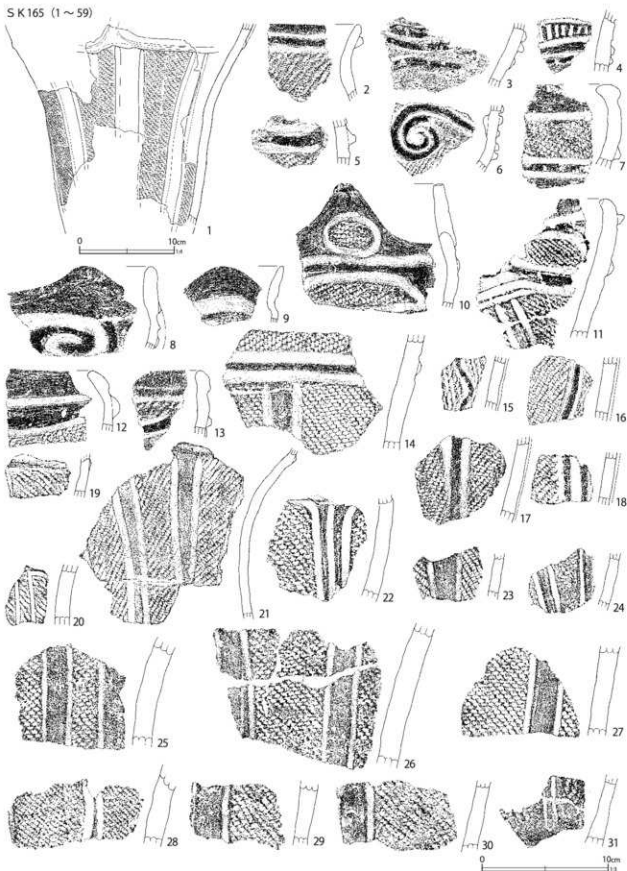


SK174 (30~34)



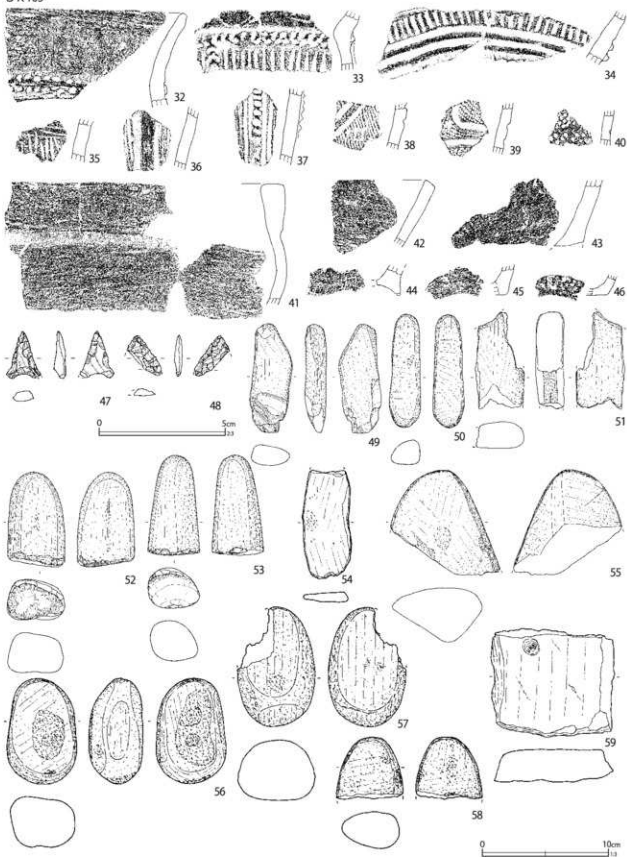
第525図 土坑出土遺物 (31)

S K165 (1~59)



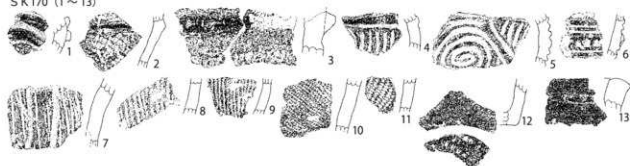
第526図 土壙出土遺物 (32)

SK 165

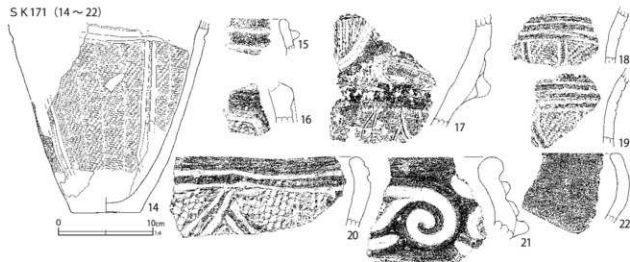


第 527 図 土壇出土遺物 (33)

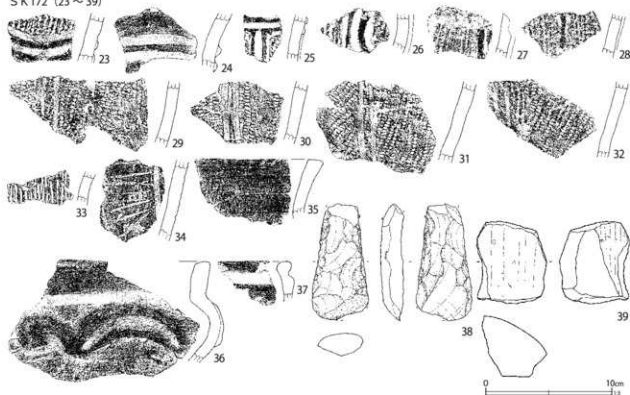
SK170 (1~13)



SK171 (14~22)



SK172 (23~39)

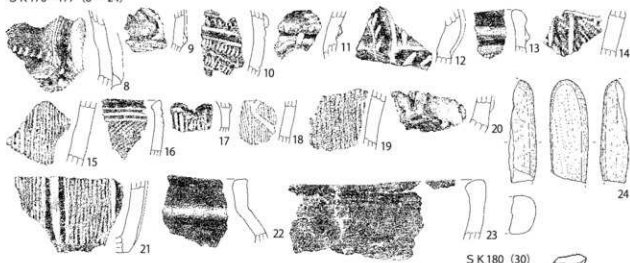


第528図 土坑出土遺物 (34)

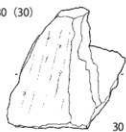
SK 175 (1~7)



SK 176・177 (8~24)



SK 180 (30)



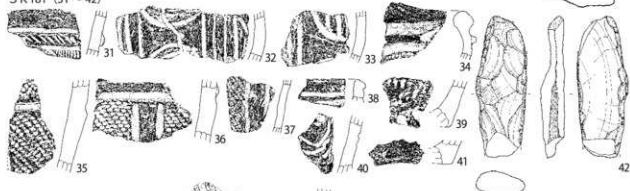
SK 178 (25~27)



SK 179 (28・29)



SK 181 (31~42)



SK 183 (43~48)



第 529 図 土壇出土遺物 (35)

第158号土壙 (第518・522図)

第158号土壙は、W-18グリッドに位置する。

北側から、第522図21の浅鉢形土器が伏せた状態で出土した。胴部から底部のみで、口縁は欠損していた。赤彩の痕跡は認められなかった。底径9.0cm、残存高6.3cmである。22～25は覆土内から出土した深鉢形土器の小破片である。流れ込みと考えられる。22は勝坂式末葉、23は曾利式系、24は加曽利E式系の土器である。時期は中期中葉の勝坂式終末期と考えられる。

第159号土壙 (第518・522図)

第159号土壙は、W-15・16グリッドに位置する。第57号住居跡に壊されている。

第522図28～36は出土した遺物である。28～35は土器の破片で、28～32は勝坂式末葉の深鉢形土器で、33・34は加曽利E式期の深鉢形土器である。35は浅鉢形土器である。胎土に金雲母が多量に含まれている。36は打製石斧である。基部と刃部を欠損する。詳細な時期は不明だが、中期である。

第160号土壙 (第518・522図)

第160号土壙は、X-18グリッドに位置する。

第522図26・27は出土したキャリバー形の深鉢形土器の破片である。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第161号土壙 (第518・524図)

第161号土壙はX-17・18グリッドに位置する。

第524図1～3は出土した深鉢形土器の破片である。1・2は隆帯脇に爪形文が施文される藤内式である。時期は中期中葉の勝坂式期である。

第162号土壙 (第518・520・524図)

第162号土壙は、Y-17グリッドに位置する。土器が敷かれた状態で検出された。確認面で土器敷部分が露出しており、上部は削平されて失われていた。そのため同一個体の土器片も多かったが器形を復元することはできなかった。

第524図7～20は出土した土器の破片である。風化が著しく、器面が磨滅している。7～15は

深鉢形土器である。7～9が同一個体、10～14が同一個体と考えられる。16～20は浅鉢形土器で、16～19は同一個体と考えられる。20は器面の磨滅が激しく不明であった。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第164号土壙 (第518・520・525図)

第164号土壙は、W-17グリッドに位置する。第62号住居跡を壊している。東側に偏って土器が出土した。

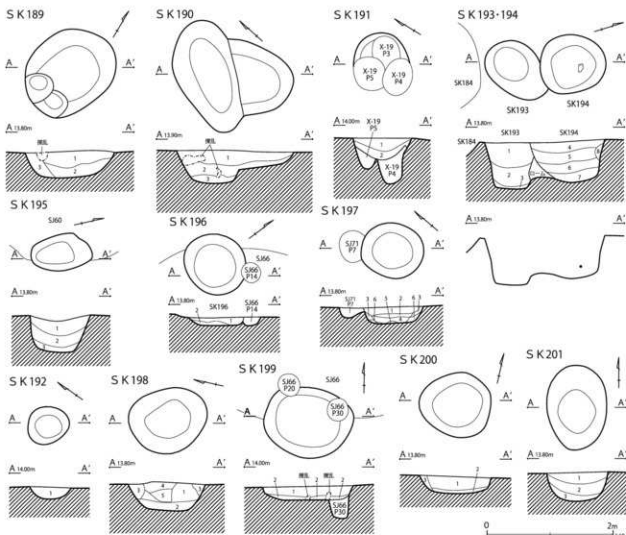
第525図1～11は出土した遺物である。1は深鉢形土器で、口縁部文様帯はない。沈線で幅の狭い磨消懸垂文が粗雑に施されている。地文として捺糸文Lが施文される。推定口径18.8cm、残存高21.7cmである。2～9は深鉢形土器の破片である。2～6・9は加曽利E式系のキャリバー形の土器で、7・8は曾利式系の土器である。10は敲石、11は磨石である。1の土器から時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第165号土壙 (第518・521・526・527図)

第165号土壙は、Y-21グリッドに位置する。第76・81号住居跡・第182号土壙を壊している。覆土からは多量の遺物が検出された。疎らに分布している。

第526・527図は出土した遺物である。

第526図1は器形復元したキャリバー形の深鉢形土器である。口縁から胴部が残存している。胴部は沈線で磨消懸垂文が垂下されている。地文は単節LRの縄文で縦方向に施文される。残存高21.4cmである。第526図2～31・第527図32～46は土器の破片資料である。2は口唇部が肥厚するもので、中峠式系の土器である。3～31は加曽利E式系のキャリバー形の深鉢形土器である。3～6・15・16は加曽利EⅠ～Ⅱ式、その他は加曽利EⅢ式である。32～37は曾利式系、38・39は連弧文系の深鉢形土器である。40は円形刺突文が地文となっている。41～43は浅鉢形土器である。赤彩の痕跡は認められなかった。44



SK 189

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土

SK 190

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 褐色土

SK 191

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土

SK 192

- 1 暗褐色土

SK 193

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 褐色土

SK 194

- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土

SK 195

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土

SK 196

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土

SK 197

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 黒色土
- 5 黒色土
- 6 暗褐色土

SK 198

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土

SK 199

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土

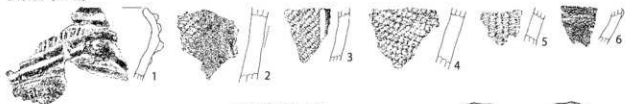
SK 200

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 褐色土

SK 201

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土

S K 184 (1 ~ 6)



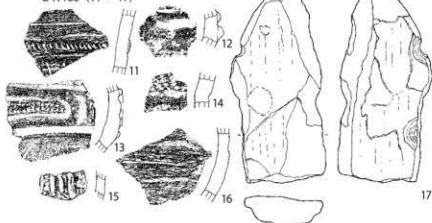
S K 186 (7 ~ 9)



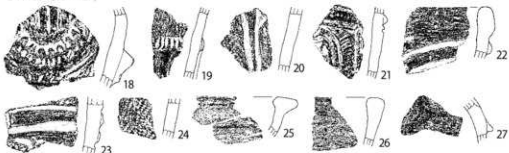
S K 187 (10)



S K 188 (11 ~ 17)



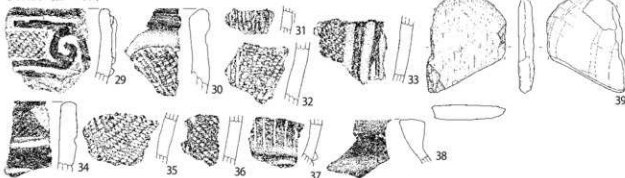
S K 189 (18 ~ 27)



S K 192 (28)



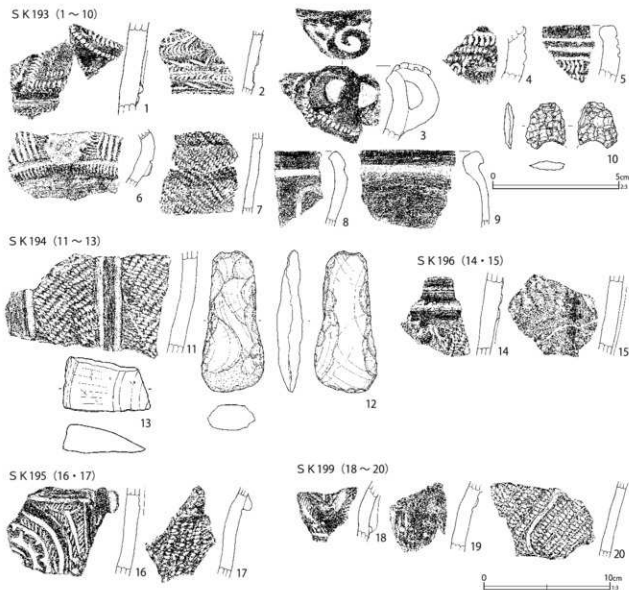
S K 190 (29 ~ 39)



S K 191 (40 ~ 47)



第 532 図 土壇出土遺物 (36)



第 533 図 土壙出土遺物 (37)

～46はミニチュアに近い小型の深鉢形土器の底部である。第527図47～59は出土した石器である。47・48は石鏃である。49は不定形の磨製石斧である。50・51は敲石で、52・53はスタンプ形石器である。54は砥石である。55～58は磨石である。59は石皿の破片である。土壙の時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第166号土壙 (第519・524図)

第166号土壙は、W-17グリッドに位置する。第62号住居跡に壊されている。

第524図21～26は出土した遺物である。21～25は出土した深鉢形土器で、21・22は加曽利

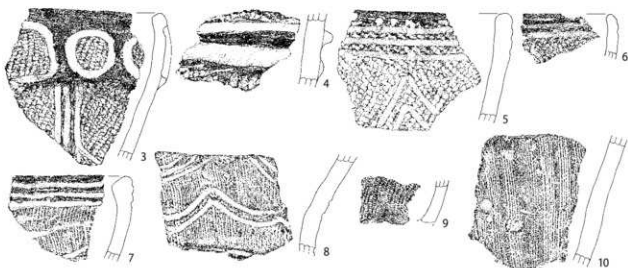
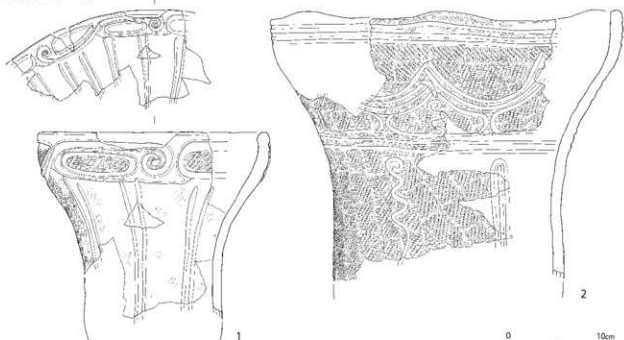
E式で、23・24は連弧文系の土器である。25は勝坂式末葉の土器である。26は磨石である。時期は中期後葉の加曽利EⅡ式期である。

第167号土壙 (第519・525図)

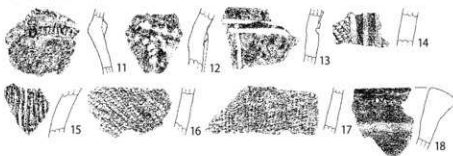
第167号土壙は、Z-19グリッドに位置する。第23号溝跡に壊されている。

第525図12～16は出土した深鉢形土器の破片である。12はペン先状の三角押文で文様が施文される。新道式である。13は曾利式系で地文は条線である。14・15は加曽利E式系の土器である。16は連弧文系の土器である。時期は中期後葉の加曽利EⅡ式期と考えられる。

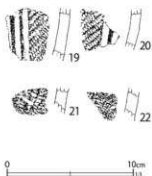
SK197 (1~10)



SK200 (11~18)

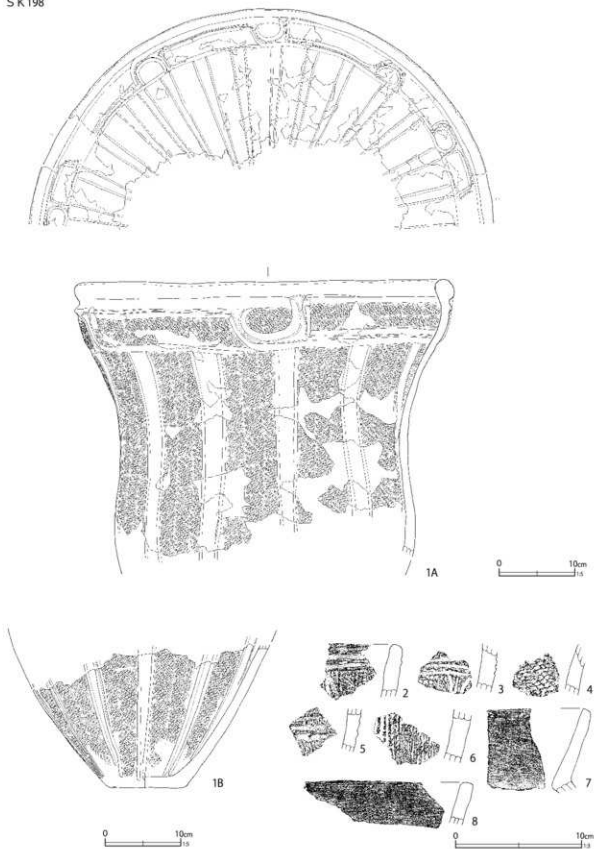


SK202 (19~22)



第 534 図 土壇出土遺物 (38)

SK198



第 535 図 土坑出土遺物 (39)

第168号土壙 (第519・525図)

第168号土壙は、A-A-19グリッドに位置する。

第525図18～29は出土した深鉢形土器の破片である。18～27は中期末葉の土器で、口縁部文様帯を持たない土器が主体となっている。28・29は後期初頭の称名寺Ⅱ式期である。時期は中期終末の加曾利EⅣ式期と考えられる。

第169号土壙 (第519・524図)

第169号土壙は、Y-17グリッドに位置する。

第290号土壙と重複するが新旧関係は不明である。

第524図4～6は出土した深鉢形土器の破片である。4は後期前葉、5・6は中期後葉の土器である。時期は中期後葉加曾利E式期と考えられる。

第170号土壙 (第519・528図)

第170号土壙は、Y-21グリッドに位置する。

第528図1～13は出土した土器の小片である。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第171号土壙 (第530・528図)

第171号土壙は、X-18グリッドに位置する。

第178号土壙と壊している。

第528図14～22は出土した土器である。14は西側から出土した。連弧文系の深鉢形土器で、胴部から底部が残存している。地文は単節RLを縄文が縦方向に施文される。底径7.2cm、残存高20.4cmである。時期は中期後葉の加曾利EⅡ式期である。

第172号土壙 (第519・528図)

第172号土壙はX-17・18グリッドに位置する。

第528図23～39は出土した遺物である。23～32は加曾利E式系のキャリバー形の深鉢形土器である。33・34は曾利式系の土器である。35～37は浅鉢形土器で、35の内面に赤彩の痕跡が認められる。38は打製石斧、39は石皿の小破片である。時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第173号土壙 (第519・525図)

第173号土壙はX・Y-19グリッドに位置する。

第525図17は深鉢形土器の口縁の突起部分で

ある。時期は中期後葉の加曾利EⅠ式期である。

第174号土壙 (第519・525図)

第174号土壙は、Y-19グリッドに位置する。

第206号土壙と壊している。

第525図30～34は出土した深鉢形土器の破片である。30～33はキャリバー形の土器であるがそれぞれ時期差がある。34は地文が条線の曾利式系の土器である。詳細な時期は不明であるが、中期後葉の加曾利E式期である。

第175号土壙 (第519・529図)

第175号土壙は、Y-19グリッドに位置する。

第203号土壙と重複するが新旧関係は不明である。

第529図1～7は出土した深鉢形土器の破片である。1～4は加曾利E系のキャリバー形の土器で、5は連弧文系の土器である。6・7は口縁部文様帯を持たない土器である。詳細な時期は不明だが、中期後葉の加曾利E式期である。

第176・177号土壙 (第529・530図)

第176・177号土壙は、Y-19グリッドに位置する。第176号土壙は第177号土壙に壊されている。遺物は一括で取り上げられた。

第529図8～24は出土した遺物である。8～12は勝坂式末葉の深鉢形土器片である。8・9は阿玉台式系である。13～27は加曾利E式期の深鉢形土器片である。17・18は曾利式系の土器である。22・23は浅鉢形土器である。24は敲石である。中期中葉の勝坂式期と中期後葉の加曾利E式期が混在している。前者が第176号土壙に、後者が第177号土壙に伴うと考えられる。

第178号土壙 (第529・530図)

第178号土壙は、X-17・18グリッドに位置する。第171号土壙に壊されている。

第530図25～27は出土した深鉢形土器片である。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第179号土壙 (第529・530図)

第179号土壙はX-17・18グリッドに位置する。

第529図28・29は出土した深鉢形土器の小片

である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第180号土壙 (第529・530図)

第180号土壙は、X-18グリッドに位置する。

第530図30は出土した石皿の小破片である。時期は不明である。

第181号土壙 (第529・530図)

第181号土壙は、X-19グリッドに位置する。

第529図31～42は出土した遺物である。31～41は深鉢形土器の破片である。31～33は勝坂式末葉の土器である。34～37は加曽利E式系のキャリパー形の土器である。38・40は連弧文系の土器である。42は刃部を欠損する打製石斧である。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期と考えられる。

第183号土壙 (第529・530図)

第183号土壙は、X-17グリッドに位置する。

第530図43～48は出土した深鉢形土器である。43・44はキャリパー形の土器である。45は施文された地文の撚糸文Lに沈線で渦巻文が施される。詳細な時期は不明だが、中期である。

第184号土壙 (第530・532図)

第184号土壙は、Y-19グリッドに位置する。第73号住居跡に壊されている。

第532図1～6は出土した土器片である。1～5は深鉢形土器、6は浅鉢形土器である。1は口縁で繫弧文が施されている。時期は中期後葉の加曽利EⅠ式期である。

第186号土壙 (第519・532図)

第186号土壙は、Y-17グリッドに位置する。第290号土壙と重複するが新旧関係は不明である。

第532図7～9は深鉢形土器の小破片である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第187号土壙 (第530・532図)

第187号土壙は、X・Y-19グリッドに位置する。第73号住居跡を壊している。

第532図10は浅鉢形土器の破片である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第188号土壙 (第530・532図)

第188号土壙は、W-18グリッドに位置する。第65号住居跡を壊している。

第532図11～17は出土した遺物で、11～15は深鉢形土器で、11は勝坂式末葉、12～15は加曽利E式である。16は浅鉢形土器である。17は石皿である。時期は中期後葉の加曽利EⅡ式期である。

第189号土壙 (第531・532図)

第189号土壙は、X-17グリッドに位置する。

第532図18～27は出土した土器片である。18～21は勝坂式末葉の深鉢形土器で、22～24は加曽利E式のキャリパー形の深鉢形土器である。25～27は浅鉢形土器である。詳細な時期は不明だが、中期と考えられる。

第190号土壙 (第531・532図)

第190号土壙は、X-18グリッドに位置する。第80号住居跡に壊されている。

第532図29～39は出土した遺物である。29～38は土器の破片で、29～37は深鉢形土器である。29～33は加曽利E式期、34は後期初頭、37は曾利式系の土器である。38は浅鉢形土器の口縁部片である。39は打製石斧の基部である。詳細な時期は不明だが、中期と考えられる。

第191号土壙 (第531・532図)

第191号土壙は、X-19グリッドに位置する。第70号住居跡に壊されている。

第532図40～47は出土した土器片である。40～46は深鉢形土器である。40は爪形文と蓮華文が施文される。41～44は勝坂式末葉の土器である。47は浅鉢形土器である。時期は中期中葉の勝坂式終末期である。

第192号土壙 (第531・532図)

第192号土壙は、X-19グリッドに位置する。

第532図28は出土した深鉢形土器の胴部の小片である。中期と考えられる。

第193号土壙 (第531・533図)

第193号土壙は、Y-19グリッドに位置する。第73号住居跡、第194号土壙に壊されている。

第533図1～10は出土した遺物である。1～9は土器の破片である。1～8は深鉢形土器である。1～7は勝坂式期である。1～4は新道式である。5～7は勝坂式末葉である。8は中期末葉の土器である。9は浅鉢形土器である。10は石織である。時期は中期中葉の勝坂式期である。

第194号土壇 (第531・533図)

第194号土壇は、X・Y-19・20グリッドに位置する。第73号住居跡に壊され、第193号土壇を壊している。

第533図11～13は出土した遺物である。11は深鉢形土器の胴部片、磨消懸垂文が施される。12は打製石斧である。13は石皿の小片である。時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第195号土壇 (第531・533図)

第195号土壇は、X-16グリッドに位置する。第60号住居跡に壊されている。

第533図16・17は出土した深鉢形土器の破片である。16は隆帯脇に沈線が沿い、隆帯上に刻みが施される。時期は中期中葉の勝坂式期である。

第196号土壇 (第531・533図)

第196号土壇は、X-18グリッドに位置する。第66号住居跡を壊されている。

第533図14・15は出土したキャリバー形の深鉢形土器の破片である。隆帯で懸垂文が施されている。時期は中期後葉の加曾利EⅠ式期である。

第197号土壇 (第520・531・534図)

第197号土壇は、W-18グリッドに位置する。第71号住居跡を壊している。土器が数か枚の状態出土している。加曾利E式系の他に異系統の連弧文系の破片を混在させて敷いていた。

第534図1～10は出土した土器で、12は器形復元した土器である。

1はキャリバー形の深鉢形土器である。底部を欠損している。胴部表面の剥落が著しい。口縁部文様帯の幅はやや狭く、隆帯と沈線で文様が施文される。両端を渦巻く沈線の間に楕円区画文が施

される。胴部は2本1組の沈線で磨消懸垂文が8または10単位施文されたと考えられる。地文は単節R Lの縄文で縦方向に施される。推定口径24.0 cm、残存高19.8 cmである。

2は連弧文系の深鉢形土器である。口縁は緩やかな波状口縁となる。胴上部には3本または4本1組の沈線で連弧文が施文される。頸部は3本沈線を巡らし、胴上部の連弧文とつなげて区画文が施される。中央に蛇行懸垂文が施文される区画がある。胴部下段は端部が渦巻く蛇行懸垂文と中央に沈線を垂下させる逆U字文が交互に施される。地文は単節R Lの縄文が斜め方向に施文される。推定口径36.0 cm、残存高28.5 cmである。

3～10は深鉢形土器の破片である。3・4は加曾利E式系のキャリバー形の土器で、5～8は連弧文系の土器である。

時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第198号土壇 (第521・531・535図)

第198号土壇は、Z-19グリッドに位置する。第535図1Aが逆位に埋設されて確認された。土器内の埋土の調査を行ったところ、1Bが逆位に落ち込んだ状態で検出された。取り上げ後に接合したところ、1Aと1Bは接合せず胴部が失われていたことが判明した。

1A・1Bは埋設されていた土器である。同一個体である。キャリバー形の深鉢形土器で、口縁部は隆帯と沈線で区画文と渦巻文が施文される。胴部には沈線による磨消懸垂文が13単位施文されている。地文は複節L R Lの縄文である。口径49.0 cm、底径11.0 cmである。1Aの残存高36.5 cm、1Bの残存高18.5 cmである。

2～8は覆土内から出土した土器片である。

土壇の時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第199号土壇 (第531・533図)

第199号土壇は、X-18グリッドに位置する。第66号住居跡に壊されている。

第533図18～20は出土した深鉢形土器の破片で

ある。18・19は勝坂式末葉、20は加曽利E式である。時期は中期中葉の勝坂式期である。

第200号土壌 (第531・534図)

第200号土壌は、Y-18グリッドに位置する。

第534図11～18は出土した土器の破片である。11～17は深鉢形土器で、11・12は勝坂末葉、13・14は加曽利E式である。18は浅鉢形土器である。中期と考えられる。

第201号土壌 (第531・538図)

第201号土壌は、Y-18グリッドに位置する。

第538図1～10は出土した遺物である。1～8は深鉢形土器の破片で、9は浅鉢形土器の破片である。1は加曽利E式系、2～6は連弧文系である。9は浅鉢形土器である。10は敷石である。時期は中期後葉の加曽利EⅡ式期である。

第202号土壌 (第534・536図)

第202号土壌は、Z-19グリッドに位置する。

第534図19～22は深鉢形土器の胴部片である。19・20は懸垂文が施文される。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第203号土壌 (第536・538図)

第203号土壌は、Y-19グリッドに位置する。

第175号土壌と重複するが新旧関係は不明である。

第538図11は深鉢形土器の胴部片である。時期は中期である。

第205号土壌 (第536・538図)

第205号土壌は、Y-19グリッドに位置する。

第538図12～18は深鉢形土器の破片である。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第206号土壌 (第536・538図)

第206号土壌は、Y-19グリッドに位置する。

第174号土壌を壊している。

第538図19～21は深鉢形土器の破片である。キャリバー形の土器で、20は隆帯で懸垂文が施される。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第207号土壌 (第536・538図)

第207号土壌は、Y-19グリッドに位置する。

第538図22・23は出土した土器の小片である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第208号土壌 (第521・536・538図)

第208号土壌は、W-19グリッドに位置する。

壁が直立気味に立ち上がる円筒状の土壌である。底面からは第538図37の連弧文系の深鉢形土器の破片が、横に寝かされて出土した。

37はバケツ状の器形で口縁には突起が施されている。口縁は2本の沈線が巡らされ胴部と区画されている。胴中央には3本沈線が破状に巡らされている。地文は単節RLの縄文が部分的に横方向、他は斜め方向に施文される。推定口径19.0cm、残存高27.0cmである。時期は中期後葉の加曽利EⅡ式期である。

第210号土壌 (第536・538図)

第210号土壌は、Z-19グリッドに位置する。

第211号土壌と重複するが新旧関係は不明である。

第538図38～44は出土した深鉢形土器片である。38は連弧文系、41は曽利式系、39・40・42・43は加曽利E式系である。44は浅鉢形土器である。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第211号土壌 (第536・538図)

第211号土壌は、Z-19グリッドに位置する。

第210号土壌と重複するが新旧関係は不明である。

第538図26～36は出土した遺物である。26～35は土器の破片である。26～34は深鉢形土器で、26～30・32は加曽利E式系のキャリバー形の土器で、29・31は連弧文系の土器である。35は台付鉢の脚部である。36は石皿の小片である。時期は中期末葉の加曽利EⅢ式期である。

第212号土壌 (第536・538図)

第212号土壌は、AA-19グリッドに位置する。

第538図24・25は出土した深鉢形土器の小片である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第219号土壌 (第536・539図)

第219号土壌は、AA-18グリッドに位置する。

第539図1・2は出土した深鉢形土器である。

1は連弧文系の土器で、2は小型の土器である。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第225号土壇 (第536・539図)

第225号土壇は、Y-19グリッドに位置する。重複する第79号住居跡と新旧関係は不明である。

第539図3～5は出土した深鉢形土器の胴部片である。隆帯による懸垂文が施されている。時期は中期後葉の加曾利E IまたはII式期である。

第227号土壇 (第537・539図)

第227号土壇は、Y-19グリッドに位置する。第79号住居跡、第228号土壇を壊している。

第539図7～10は出土した深鉢形土器の破片である。7は勝坂式、8～10は加曾利E式である。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第228号土壇 (第537・539図)

第228号土壇は、Y-19グリッドに位置する。第79号住居跡を壊し、第227号土壇に壊される。

第539図6は出土した深鉢形土器の小片である。勝坂式で沈線間に爪形文が施文される。詳細な時期は不明だが中期である。

第230・231号土壇 (第537・539図)

第230号土壇は、Y-19グリッドに位置する。第79号住居跡を壊し、第230号土壇は第231号土壇に壊されている。

第539図11～16は出土した深鉢形土器片である。11は口唇部が肥厚する中鉢式系で、12～14は加曾利E式系のキャリバー形、15は連弧文系である。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第232・233号土壇 (第537・539図)

第232号土壇は、Y・Z-19・20グリッドに位置する。第79号住居跡と新旧関係は不明で、第232号土壇が第233号土壇を壊している。

第539図17～23は出土した深鉢形土器の破片である。8～23は、2基の土壇一括として取り上げたものである。17はキャリバー形の土器で、地文は単節RLの縄文である。17の時期は中期後葉の加曾利E II式期である。

第235号土壇 (第537・539図)

第235号土壇は、X-18グリッドに位置する。重複する第80号住居跡と新旧関係は不明である。

第539図24～37は出土した遺物である。24～36は土器片で、24・25は中鉢式系、26～31は加曾利E式系のキャリバー形の土器で、32は連弧文系である。34～36は浅鉢形土器である。37は縦長剥片の縁辺を使用したスクレイパーである。時期は中期後葉の加曾利E I式期である。

第236号土壇 (第537・540図)

第236号土壇は、Y-20グリッドに位置する。第50・75号住居跡に壊されている。

第540図1～5は出土した深鉢形土器の破片である。1～3は阿玉台式系の土器で、1は爪形文が、2は角押文が施文されている。時期は中期中葉の勝坂式古段階期である。

第237号土壇 (第537・540図)

第237号土壇は、Z-20グリッドに位置する。第75号住居跡、第241号土壇を壊す。

第540図6～31は出土した遺物である。6～28は土器の破片である。6～21は加曾利E式系のキャリバー形の深鉢形土器である。12以外の胴部は磨消懸垂文が施文される。22は連弧文系の深鉢形土器で、24・25は条線のみが施文される深鉢形土器である。26～28は浅鉢形土器で、28は内外面に赤彩が残されている。表面は顕著である。29・30は打製石斧、31は磨石である。時期は中期末葉の加曾利E III式期である。

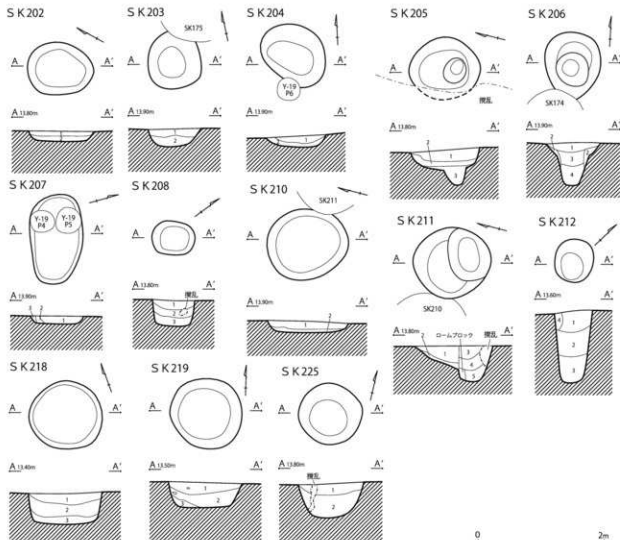
第239号土壇 (第540・542図)

第239号土壇は、Z-22グリッドに位置する。第238号土壇に壊されている。

第542図32～36は深鉢形土器の小片である。32・33は勝坂式期、34～36は加曾利E式期である。詳細な時期は不明だが、中期である。

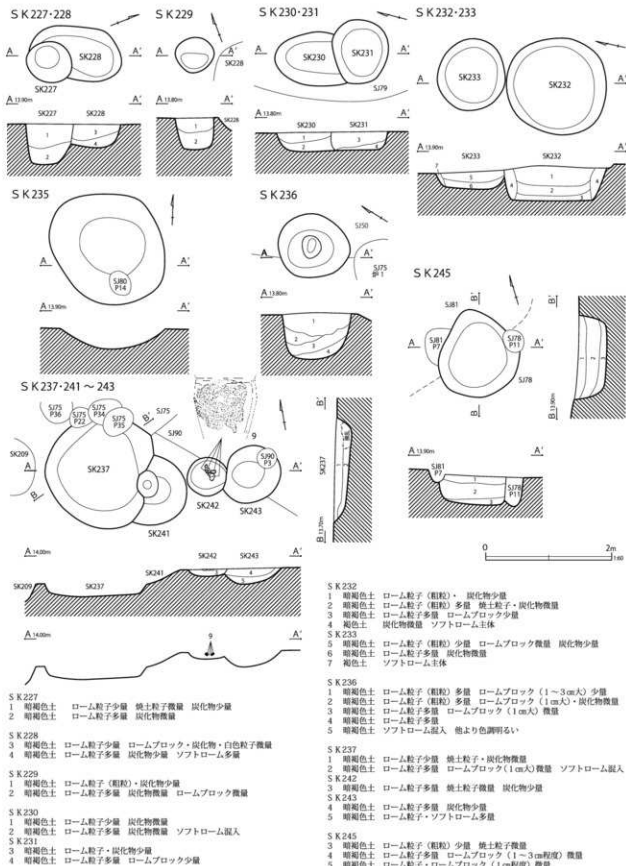
第240号土壇 (第540・542図)

第240号土壇は、Y-22グリッドに位置する。第83号住居跡に壊されている。



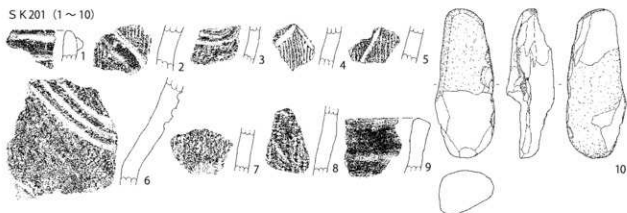
- S K 202
1 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量
2 暗褐色土 ローム粒子・ソフトローム多量
- S K 203
1 暗褐色土 ローム粒子・ブロックを含まず、やや黒い
2 暗褐色土 ローム粒子やや多量
- S K 204
1 暗褐色土 ローム粒子多量
2 暗褐色土 1層よりローム粒子を多く含む ロームブロック
- S K 205
1 暗褐色土 ローム粒子を多く含む
2 暗褐色土 ロームブロック多量
3 暗褐色土 ローム粒子微量
- S K 206
1 暗褐色土 ローム粒子微量
2 暗褐色土 ロームブロック多量
3 暗褐色土 ローム粒子を多く含むがロームブロックを含まない
4 暗褐色土 ローム粒子多量
- S K 207
1 暗褐色土 ローム粒子多量
2 暗褐色土 ロームブロック多量
3 暗褐色土 ロームブロック多量 2層より暗い
- S K 208
1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物微量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・炭化物微量
土層が埋まっていた層

- S K 210
1 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）・炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量 炭化物微量
- S K 211
1 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 炭化物微量
2 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック少量
3 ビット
4 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量
5 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック微量
ソフトローム混入する層
- S K 212
1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物少量
3 暗褐色土 ローム粒子・ソフトローム多量
4 暗褐色土 ロームブロック
- S K 218
1 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子・炭化物微量
2 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量
3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量 炭化物少量
- S K 219
1 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物少量 縄文土層出土
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック・炭化物少量 縄文土層出土
3 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量
- S K 225
1 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子微量 炭化物少量
2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量 炭化物微量



第 537 図 土 壌 (18)

S K 201 (1 ~ 10)



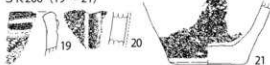
S K 203 (11)



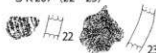
S K 205 (12 ~ 18)



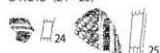
S K 206 (19 ~ 21)



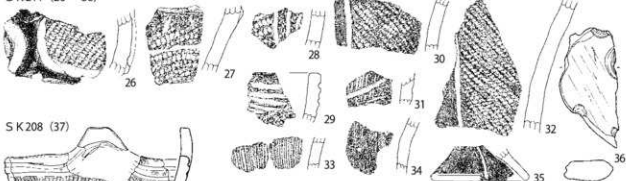
S K 207 (22 ~ 23)



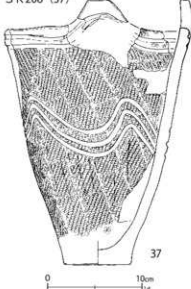
S K 212 (24 ~ 25)



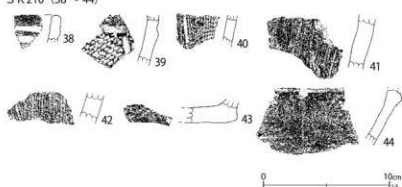
S K 211 (26 ~ 36)



S K 208 (37)

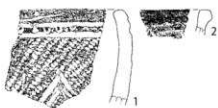


S K 210 (38 ~ 44)

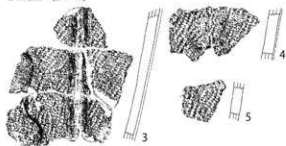


第 538 図 土坑出土遺物 (40)

SK219 (1・2)



SK225 (3~5)



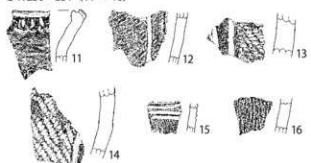
SK228 (6)



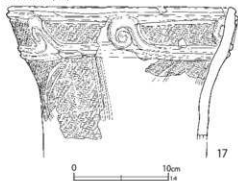
SK227 (7~10)



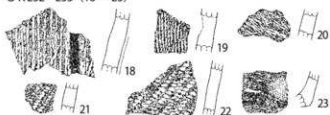
SK230・231 (11~16)



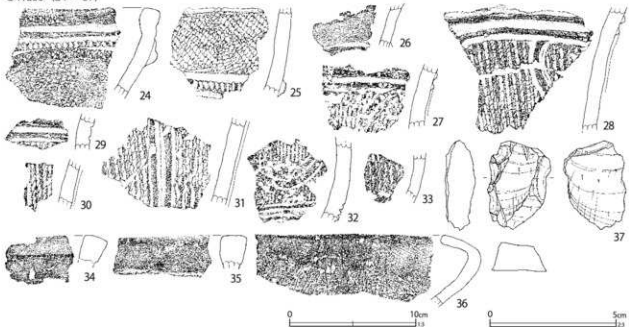
SK233 (17)



SK232・233 (18~23)

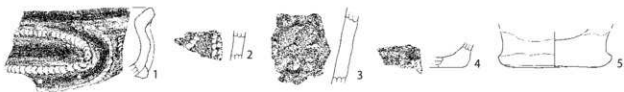


SK235 (24~37)

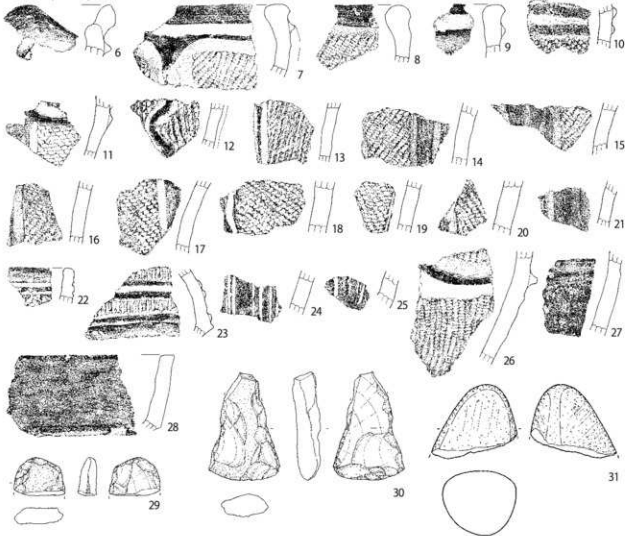


第539図 土壇出土遺物 (41)

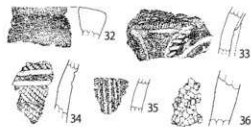
S K236 (1~5)



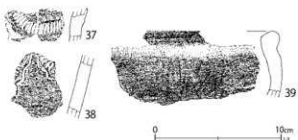
S K237 (6~31)



S K239 (32~36)

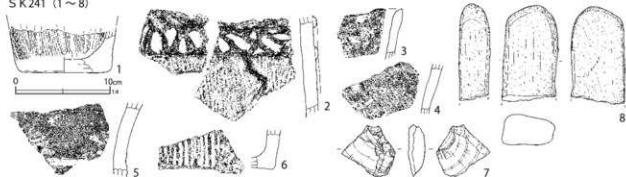


S K240 (37~39)

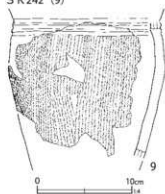


第540図 土坑出土遺物 (42)

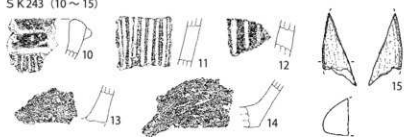
S K 241 (1 ~ 8)



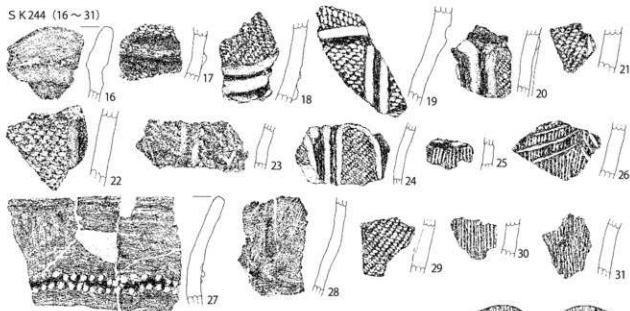
S K 242 (9)



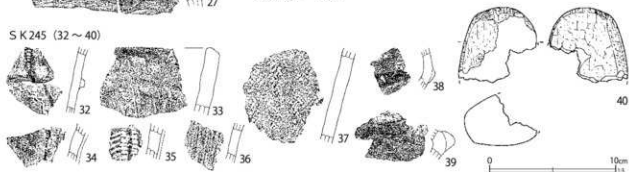
S K 243 (10 ~ 15)



S K 244 (16 ~ 31)



S K 245 (32 ~ 40)



第 541 図 土坑出土遺物 (43)

第540図37～39は出土した土器片である。

37・38は深鉢形土器土器で、爪形文や波状文が施文される新道式である。39は浅鉢形土器である。時期は中期中葉の勝坂式期である。

第241号土壙 (第537・541図)

第241号土壙は、Z-20グリッドに位置する。第237号土壙に壊されている。

第541図1～8は出土した遺物である。1は加曾利E式系のキャリバー形の深鉢形土器の底部である。隆帯で懸垂文が施文され、地文は撫糸文Lである。底径9.6cm、残存高4.8cmである。2～6は土器片で、2は曾利式系の深鉢形土器である。3・4は小型でミニチュアに近い無文の深鉢形土器である。7は使用痕を有する剥片で、8は磨石である。時期は中期後葉の加曾利E I式期である。

第242号土壙 (第537・541図)

第242号土壙は、Z-20グリッドに位置する。第90号住居跡と重複するが新旧関係は不明である。第243号土壙を壊している。

第541図9は出土した深鉢形土器で、頸部から胴部が残存している。地文である撫糸文Lのみが施文される。残存高14.0cmである。時期は中期後葉の加曾利E I式期である。

第243号土壙 (第537・541図)

第243号土壙は、Z-20グリッドに位置する。第90号住居跡と重複するが新旧関係は不明である。第242号土壙に壊されている。

第541図10～15は出土した遺物である。10～14は深鉢形土器の破片である。15は磨石である。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第244号土壙 (第541・542図)

第244号土壙は、Y-21グリッドに位置する。第81号住居跡を壊している。

第541図16～31は出土した深鉢形土器片である。16～24は加曾利E式系、25・26は連弧文系、27・28は曾利式系の土器である。時期は中期末葉の加曾利E III式期と考えられる。

第245号土壙 (第537・541図)

第245号土壙は、Z-21グリッドに位置する。第78・81号住居跡に壊されている。

第541図32～40は出土した遺物である。32・34は阿玉台式系で、33・35は勝坂式系の深鉢形土器である。36・37は地文のみの深鉢形土器の胴部である。38・39は浅鉢形土器の肩部である。40は磨石である。側縁は面取りが施されている。時期は中期中葉の勝坂式期である。

第246号土壙 (第542・546図)

第246号土壙は、Y・Z-21・22グリッドに位置する。第81・83号住居跡と重複するが新旧関係は不明である。

第546図1～11は出土した遺物である。1～4は勝坂式期の深鉢形土器である。5・6は加曾利E式期の深鉢形土器である。7～10は深鉢形土器で、11は浅鉢形土器である。詳細な時期は不明だが中期と考えられる。

第247号土壙 (第542・545・547～549図)

第247号土壙は、Y・Z-22グリッドに位置する。第83号住居跡を壊している。土壙内には土器片が敷かれた状態で出土した。やや北寄りにまともって出土した。出土土器は加曾利E式系の他、異系統の連弧文系の土器も出土した。

第547～549図は出土した土器である。

第547図1・2、第548図3～5は器形が復元できた土器である。

1～5のうち、4は連弧文系で他は加曾利E式系のキャリバー形の深鉢形土器である。

1は口縁から胴部が残存するもので、口縁には栴円区画文と渦巻文が施文される。胴部は2本1組の沈線で磨消懸垂文が施される。地文として単節RLの縄文が縦方向に施文される。口径30.0cm、残存高29.0cmである。

2は口縁から胴部が残存する。口縁部は沈線と微隆起状の隆帯で渦巻文が4単位施文され、その間には長楕円形の区画文が施文される。胴部は2本

1組の沈線で磨消懸垂文が垂下される。地文は複節LRの縄文が縦方向に施文される。口径37.8cm、残存高16.5cmである。

3は口縁から胴部が残存している。器形は崩れ口縁部もほとんど内湾しない。口縁部には4単位の渦巻文が施文される。渦巻文間は楕円状の区画が施されている。地文は単節RLの縄文が口縁は横、胴部は縦方向に施文される。口径45.0cm、残存高17.1cmである。

4は口縁から胴部が残存している。口縁は緩やかな波状口縁で4単位と考えられる。口縁は3本沈線が巡らされ、上2本には円形刺突文が交互に施文される。胴部は中央の括弧で上下に文様が分かれる。上部は2段の連弧文が施され、下部は逆U字状文が施文される。地文は撫糸文Lである。推定口径24.6cm、残存高20.9cmである。

5は頸部から胴部が残存している。口縁部文様帯との区画である隆帯の一部が残っている。胴部には2本1組の沈線による磨消懸垂文が垂下されている。地文は単節RLの縄文が縦方向に施文される。残存高19.7cmである。

第548図6～17、第549図18～34は出土した土器の破片資料である。6～32、34は加曾利E式系のキャリパー形の深鉢形土器である。胴部文様は沈線で磨消懸垂文が施文される。33は浅鉢形土器である。35は軽石である。

土器の時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第248号土壙 (第542・550・551図)

第248号土壙は、Z-21グリッドに位置する。第81号住居跡・第289号土壙を壊している。土壙は階段状に掘り込まれており、覆土内からは遺物が多量に出土した。

第550・551図は出土した遺物である。

第550図1・2は同一個体だが接点はなく、上下の文様のつながりも明確でないため別々に図化した。口縁は肥厚し、1本の沈線が巡らされる。文様は沈線で描出される。底部近くは器面は風化

が著しい。推定口径27.0cm。推測される残存高は33.7cmである。

第550図3～21、第551図22～33は土器の破片資料である。3～21は称名寺式系の深鉢形土器で、3～12は平行する沈線内に縄文や列点が施文される。13～21は沈線のみである。22～32は堀之内1式と考えられる深鉢形土器である。22～27の口唇部は肥厚している。33は壺形土器の把手部分である。34は敲石、35は磨石、36は石皿である。土器の構成は第28号住居跡と似ている。

時期は後期前葉の堀之内1式期と考えられる。

第249号土壙 (第542・546図)

第249号土壙は、Z-20・21グリッドに位置する。第76号住居跡に壊されている。

第546図15～20は出土した深鉢形土器片で、時期は中期後葉の加曾利E式期と考えられる。

第250号土壙 (第542・546図)

第250号土壙は、Z-21グリッドに位置する。第76号住居跡を壊している。

第546図12～14は出土した土器の小片である。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第251号土壙 (第542・546図)

第251号土壙は、Z-21グリッドに位置する。第76号住居跡・第252号土壙に壊されている。

第546図21～25は出土した深鉢形土器である。21は加曾利E式系、22～25は曾利式系である。時期は中期後葉の加曾利E式期である。

第252号土壙 (第542・546図)

第252号土壙は、Z-21グリッドに位置する。第76号住居跡・第251号土壙を壊している。

第546図26～29は出土した土器片である。時期は後期前葉の堀之内1式期である。

第253号土壙 (第543・546図)

第253号土壙は、Z-20グリッドに位置する。第75・76・90号住居跡に壊されている。

第546図36～45は出土した土器の破片である。

36～44は深鉢形土器である。36は三角押文が施文される。新道式である。37・38は爪形文が施される。藤内式である。39～42は勝坂式末葉である。45は浅鉢形土器で波頂部下に円孔が施される。時期は中期中葉の勝坂式終末期である。

第254号土壇 (第543・546図)

第254号土壇は、Z-21グリッドに位置する。第85号住居跡に壊される。第288・291号土壇と重複するが新旧関係は不明である。

第546図30～35は出土した遺物である。30～34は土器の小片である。30は阿玉台式の深鉢形土器である。35は打製石斧の破片である。詳細な時期は不明であるが、中期である。

第255号土壇 (第543・546図)

第255号土壇は、Z-21グリッドに位置する。第256号土壇に壊されている。

第546図46は深鉢形土器の小片である。時期は中期と考えられる。

第256号土壇 (第543・552図)

第256号土壇は、Z-21グリッドに位置する。第255号土壇を壊している。

第552図1～8は出土した深鉢形土器片である。1は勝坂式末葉、2～8は加曽利E式期である。時期は中期後葉の加曽利E式期と考えられる。

第257号土壇 (第543・546図)

第257号土壇は、Z-19グリッドに位置する。

第546図47～50は出土した深鉢形土器の小片である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第259号土壇 (第543・552図)

第259号土壇は、AA-20グリッドに位置する。第77号住居跡を壊している。

第552図9・10は出土した深鉢形土器の破片である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第260号土壇 (第543・552図)

第260号土壇は、Z-19グリッドに位置する。第82号住居跡に壊されている。

第552図11～20は出土した土器の破片である。

11～18は深鉢形土器で、19・20は浅鉢形土器である。20は表面にわずかに赤彩が認められる。時期は中期後葉の加曽利E I式期である。

第261号土壇 (第543・552図)

第261号土壇は、Y-21グリッドに位置する。第76・88号住居跡に壊されている。

第552図21～23は出土した土器である。時期は中期中葉の勝坂式古段階期である。

第262号土壇 (第543・552図)

第262号土壇は、Z-21グリッドに位置する。第552図24～27は深鉢形土器の胴部片である。覆土に繊維が含まれている。時期は前期中葉の黒浜式期である。

第263号土壇 (第543・552図)

第263号土壇は、Z-20グリッドに位置する。第82号住居跡に壊されている。

第552図28～30は出土した深鉢形土器の破片である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第264号土壇 (第543・545・553～555図)

第264号土壇は、Z-20グリッドに位置する。第77号住居跡を壊している。土壇内からは土器片が敷かれた状態で出土した。西側に偏っており、円形にまとまりがあるように見られる。

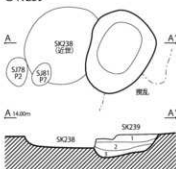
第553～555図は出土した遺物である。すべて土器である。加曽利E式系、連弧文系、曽利式系の土器が出土した。曽利式系の土器片は多量に出土したが、器形復元ができるものはなかった。

第553図1～5は器形復元した土器で、1・3・5は加曽利E式系のキャリバー形の深鉢形土器、2・4は連弧文系の深鉢形土器である。

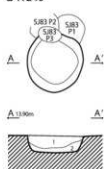
1は口縁から胴部である。口縁部文様は隆帯と沈線で施文される。渦巻文が6単位施される。渦巻文間は楕円区画文が施されている。胴部は2本1組の沈線で磨消懸垂文が施文されている。地文は複筋LRLが縦方向に施文される。推定口径29.6cm、残存高18.1cmである。

2は口縁から胴部が残存している。3本1組の

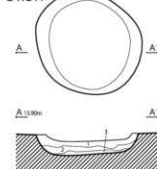
S K 239



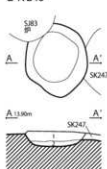
S K 240



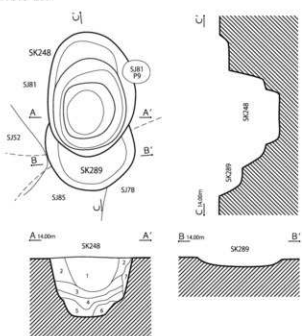
S K 244



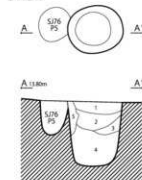
S K 246



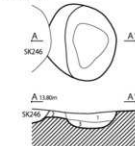
S K 248-289



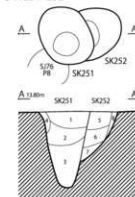
S K 249



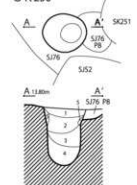
S K 247



S K 251-252



S K 250



S K 239

- 1 暗褐色土 ローム粒子微量
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (3cm程度)・焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色土 ローム粒子微量 ソフトローム主体

S K 240

- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック (2~5cm程度) 少量

S K 244

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック (1~2cm程度)・炭化物微量
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化物少量
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック (8cm程度) 多量

S K 246

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子微量 炭化物少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック (3~5cm程度) 多量

S K 247

- 1 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 少量 焼土粒子微量 焼土中から縄文土源がまともて多量に出土
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色土 ローム粒子・ソフトローム多量

S K 248

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック (1cm程度)・炭化物・焼土粒子微量 土層明瞭に現れ込め、縄文土源が多量に出土する
- 2 暗褐色土 ローム粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 焼土粒子・炭化物微量
- 4 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック (1~4cm程度)・焼土粒子微量
- 5 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒)・焼土粒子微量
- 6 暗褐色土 ローム粒子少量 ソフトローム多量
- 7 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 ロームブロック主体

S K 249

- 1 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 少量 ロームブロック (1cm大)・焼土粒子微量 炭化物少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 ロームブロック (1~3cm大) 少量 炭化物微量
- 3 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒)・炭化物少量
- 4 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物微量
- 5 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1~2cm大) 多量

S K 250

- 1 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒)・炭化物少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 ロームブロック (1cm大)・焼土粒子微量 炭化物少量
- 3 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック (1~3cm大) 少量
- 4 暗褐色土 ローム粒子多量
- 5 暗褐色土 ソフトローム多量

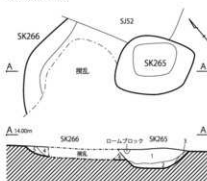
S K 251

- 1 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 少量 ロームブロック (1cm大)・炭化物微量
- 2 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 ロームブロック (1~2cm大) 少量 焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色土 ローム粒子多量
- 4 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量

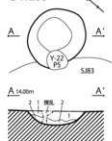
S K 252

- 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1~3cm大) 多量
- 3 暗褐色土 ローム粒子 (粗粒) 多量 ロームブロック (1cm大) 微量
- 4 暗褐色土 ソフトローム主体

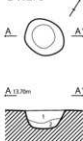
SK 265・266



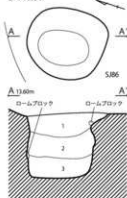
SK 268



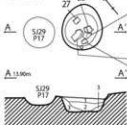
SK 276



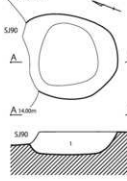
SK 267



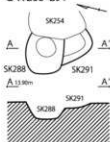
SK 293



SK 287



SK 288・291



SK 292



SK 265

- 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物微量
- 3 暗褐色土 ソフトローム多量

SK 266

- 4 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物少量 層より明るい
- 5 暗褐色土 ローム粒子・ソフトローム多量

SK 267

- 1 暗褐色土 ローム粒子（面状）少量 ロームブロック・焼土粒子微量 炭化物少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子（面状）多量 焼土粒子微量 炭化物多量
- 3 暗褐色土 ローム粒子（面状）多量 炭化物少量 ソフトロームブロック状に少量 1、2層に比べ色調明るい

SK 268

- 1 暗褐色土 ローム粒子（面状）微量
- 2 暗褐色土 ローム粒子微量 ロームブロック（1～2cm程度）少量 ソフトロームブロック多量

SK 276

- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色土 ローム粒子・炭化物微量 ソフトロームブロック多量

SK 287

- 1 暗褐色土 ローム粒子（面状）・焼土粒子・炭化物微量

SK 293

- 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック微量
- 3 暗褐色土 ソフトローム多量に炭入

第544図 土壌(21)

沈線で文様が施される。口縁は緩やかな波状口縁で3単位と推定される。地文は単節RLの縄文で、口縁部は横方向、胴部は縦方向に施文される。推定口径34.0cm、残存高8.5cmである。

3は口縁と胴部が残存している。口縁部は隆帯とそれに沿った沈線によって文様が施文される。胴部は2本1組の沈線による磨消懸垂文が垂下させられている。地文は複節LRLの縄文で縦方向に施文される。残存高28.0cmである。

4は口縁から胴部が残存している。連弧文は3本沈線で施文され、3本目は巾着状に文様が施されている。地文は単節RLの縄文が施文される。推定口径20.4cm、残存高12.7cmである。

5は胴部と底部が残存している。懸垂文が施さ

れている。地文は単節RLの縄文で縦方向に施文される。推定口径9.6cm、残存高9.5cmである。

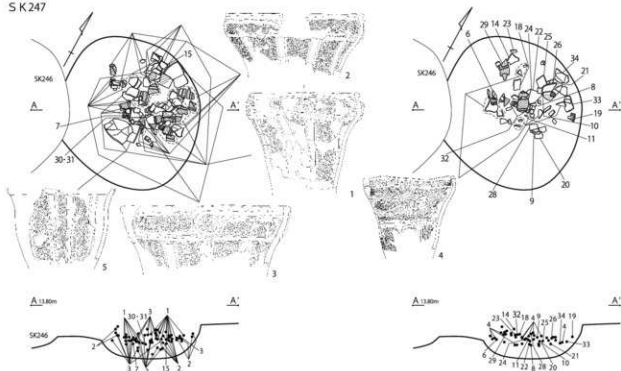
第554図6～21、第555図27～35は土器の破片資料である。6～33は深鉢形土器である。6～14は加曾利E式系のキャリバー形の土器である。15～19は連弧文系の土器である。21～33は曾利式系の土器である。34・35は浅鉢形土器である。35は内面に赤彩がわずかに残っている。時期は中期末葉の加曾利EⅢ式期である。

第265号土壌（第544・552図）

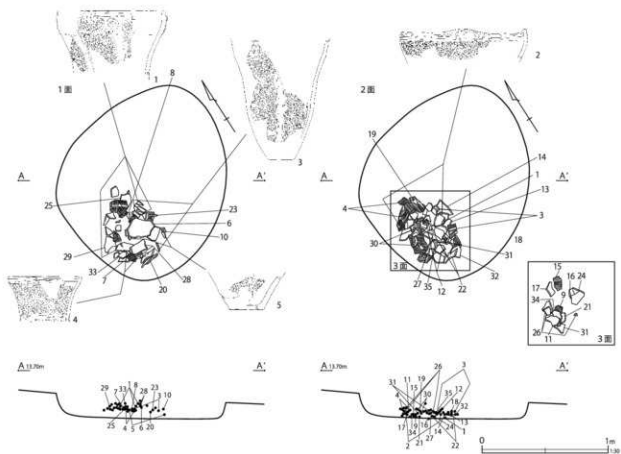
第265号土壌は、Zー21グリッドに位置する。奈良時代の第52号住居跡に壊されている。第266号土壌を壊している。

第552図35・36は出土した深鉢形土器の小片

S K 247

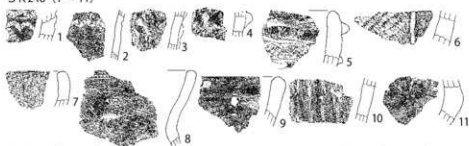


S K 264

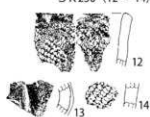


第 545 图 土壤遺物出土状況 (7)

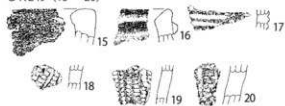
S K 246 (1 ~ 11)



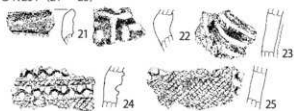
S K 250 (12 ~ 14)



S K 249 (15 ~ 20)



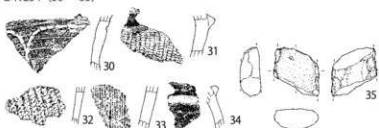
S K 251 (21 ~ 25)



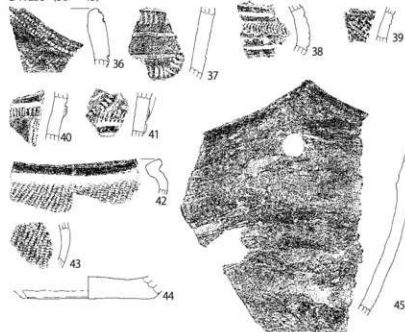
S K 252 (26 ~ 29)



S K 254 (30 ~ 35)



S K 253 (36 ~ 45)



S K 255 (46)

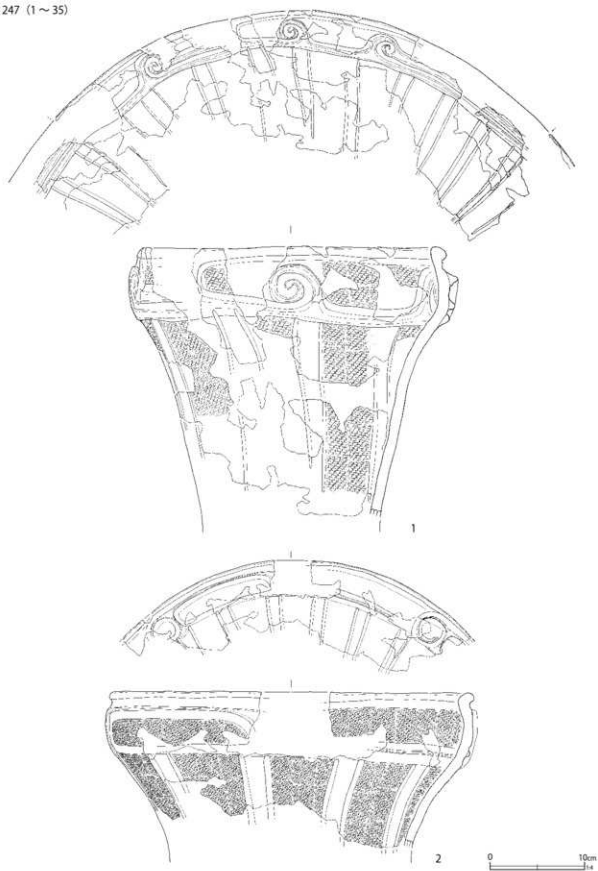


S K 257 (47 ~ 50)

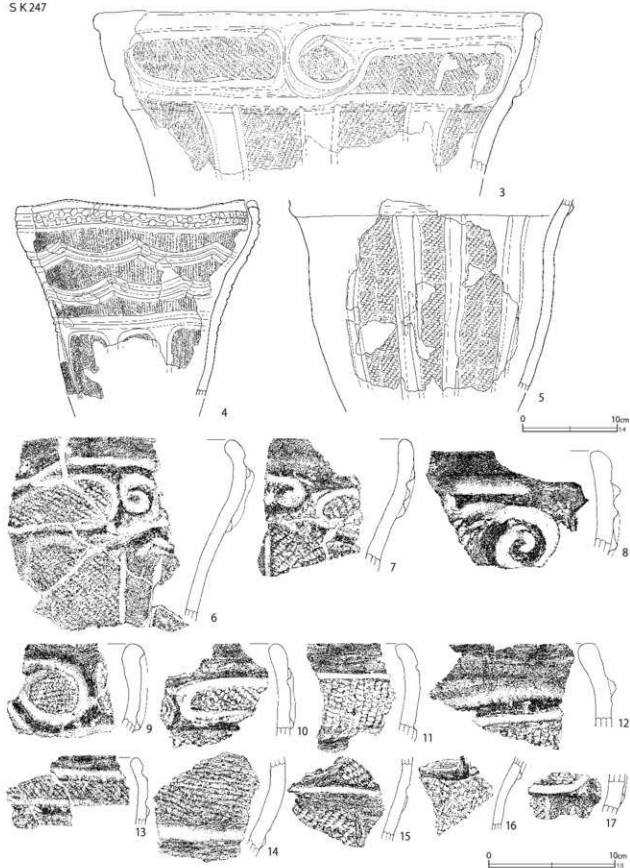


第 546 図 土坑出土遺物 (44)

S K247 (1 ~ 35)

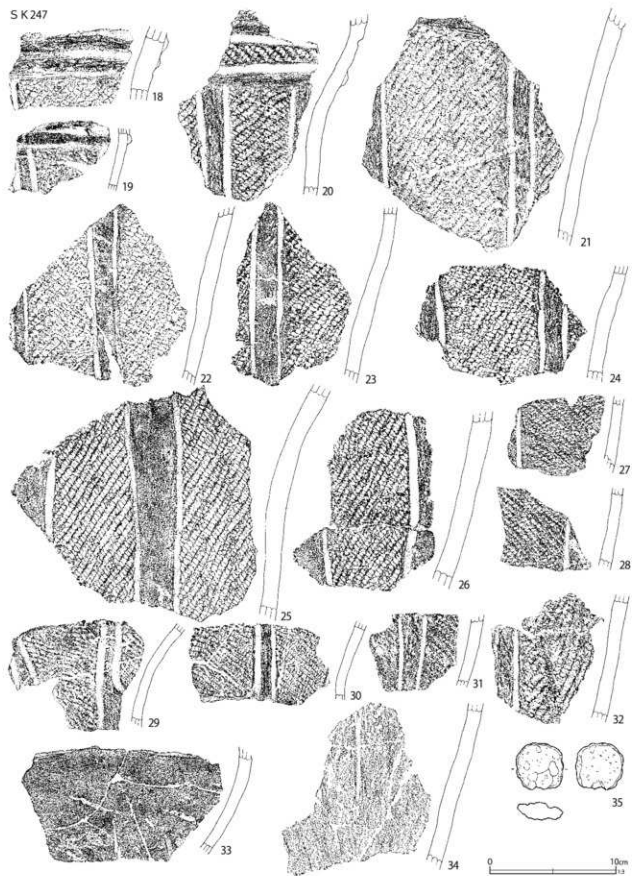


第 547 図 土壙出土遺物 (45)



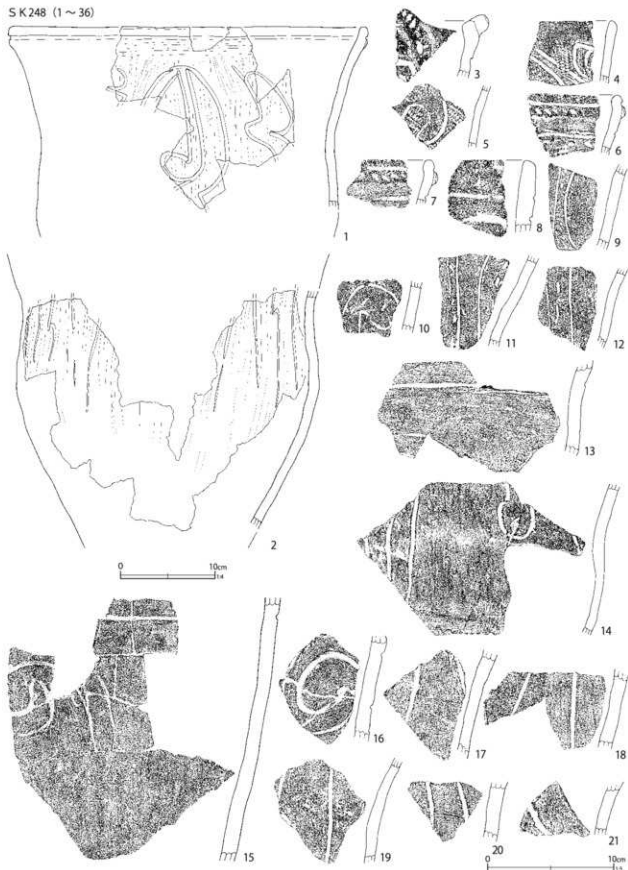
第 548 図 土壇出土遺物 (46)

SK247

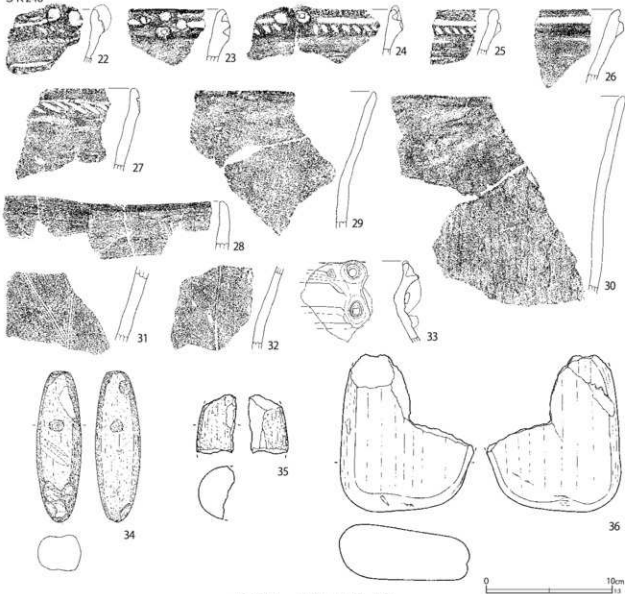


第 549 図 土坑出土遺物 (17)

S K 248 (1 ~ 36)



第 550 図 土坑出土遺物 (48)



第551図 土壙出土遺物 (49)

である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第266号土壙 (第544・556図)

第266号土壙は、Z-21グリッドに位置する。奈良時代の第52号住居跡・第265号土壙に壊されている。

第556図1～14は出土した遺物である。1～10は出土した深鉢形土器の破片である。1～6は阿玉台式系の土器である。1は把手部である。7は角押文が、9はペン先状の三角押文が施文され、新道式である。8は隆帯脇に爪形文が施文される。藤内式である。10は曽利式系の土器である。11はスタンプ形石器、12～14は磨石である。

時期は中期中葉の勝坂式中段階期である。

第267号土壙 (第544・552図)

第267号土壙は、AA-20グリッドに位置する。第86号住居跡に壊されている。

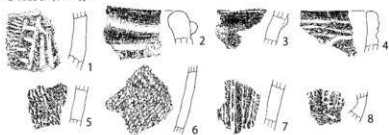
第552図31～34は出土した深鉢形土器の小片である。時期は中期後葉の加曽利E式期である。

第268号土壙 (第544・552図)

第268号土壙は、Y-22グリッドに位置する。第83号住居跡に壊されている。

第552図37～39は出土した遺物である。37・38は深鉢形土器の口縁部片である。37は口縁に渦巻状の貼付文が施され、そこから口縁部文様

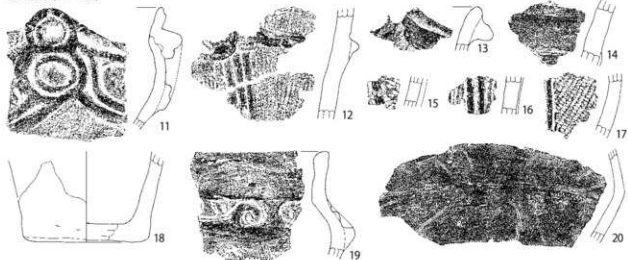
S K 256 (1 ~ 8)



S K 259 (9 ~ 10)



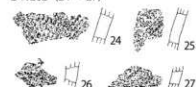
S K 260 (11 ~ 20)



S K 261 (21 ~ 23)



S K 262 (24 ~ 27)



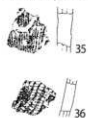
S K 263 (28 ~ 30)



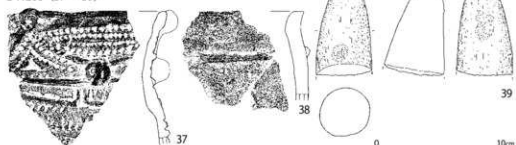
S K 267 (31 ~ 34)



S K 265 (35 ~ 36)

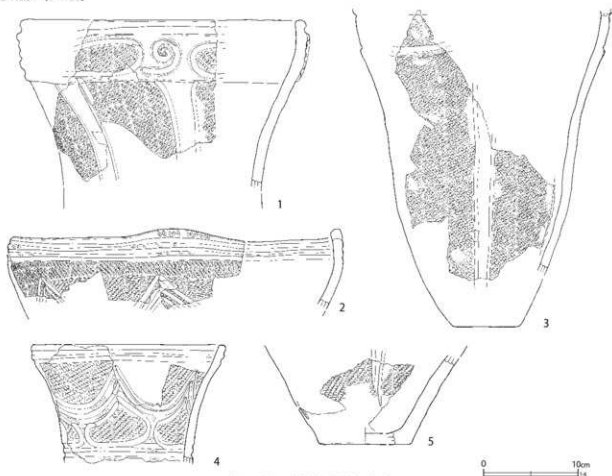


S K 268 (37 ~ 39)



0 10cm

第 552 図 土坑出土遺物 (50)



第553図 土壙出土遺物 (51)

の隆帯が施文されている。区画内には三角押文が施文され、中央には印刻状の三角文が施されている。胴部は半截竹管で浮き彫り状に文様が施される。胴部には地文が施文される。地文は0段多条RLの縄文が横方向に施文される。39は磨製石斧の基部である。時期は中期中葉の勝坂式古段階期である。

第276号土壙 (第544・556図)

第276号土壙は、Z-22グリッドに位置する。

第556図15~22は出土した遺物である。15~21は深鉢形土器の破片で、15・16は阿玉台式系の土器である。17~21は勝坂式末葉の土器である。22は打製石斧の基部である。時期は中期中葉の勝坂式期である。

第293号土壙 (第544・556図)

第293号土壙は、Y-22グリッドに位置する。

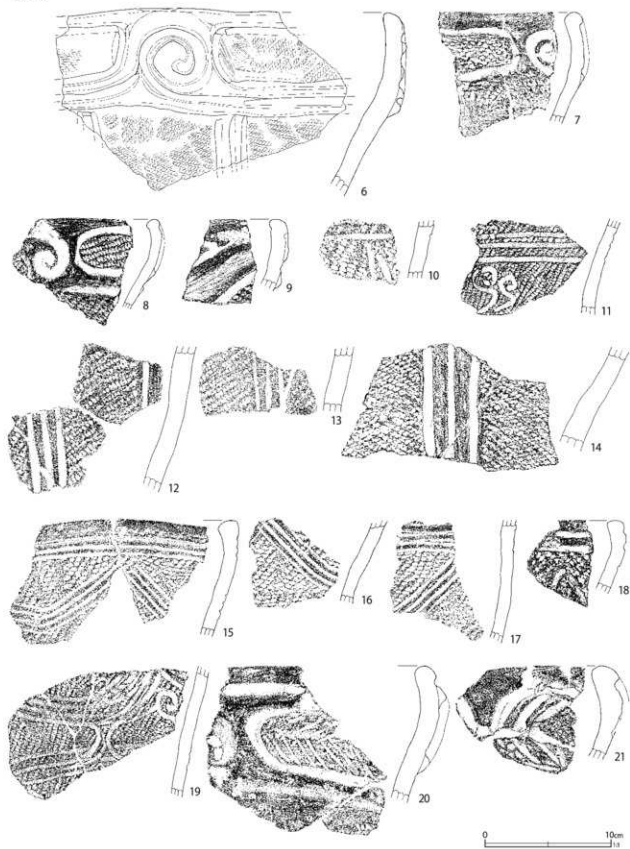
第29号住居跡に壊されている。

第556図23~27は出土した土器である。

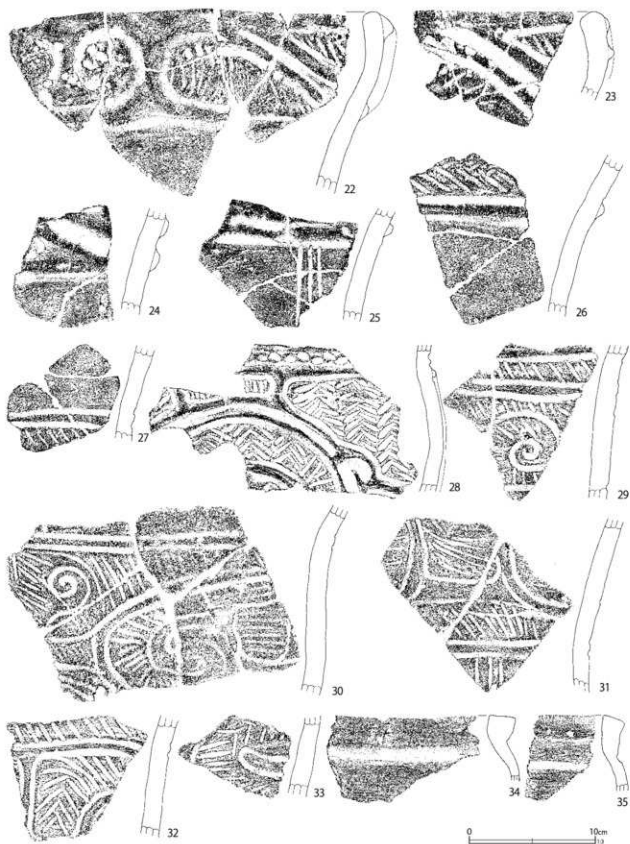
23~25は器形復元された土器である。23は深鉢形土器で波状口縁の一部が残存している。胴部は無文である。底径7.4cm、残存高10.2cmである。24は深鉢形土器の胴部から底部である。器面は無文である。底面は被熱のため剥落している。底径7.0cm、残存高7.6cmである。25は浅鉢形土器の口縁から胴部である。屈曲する肩部に文様が施文される。文様は楕円状の区画内に三角押文が施されている。器面は剥落が著しい。胴部はミガキ状の整形を行っているが粗雑である。推定口径28.0cm、残存高11.5cmである。

26・27は深鉢形土器の破片で、27は三角押文が施文される。

時期は中期中葉の勝坂式古段階期と考えられる。

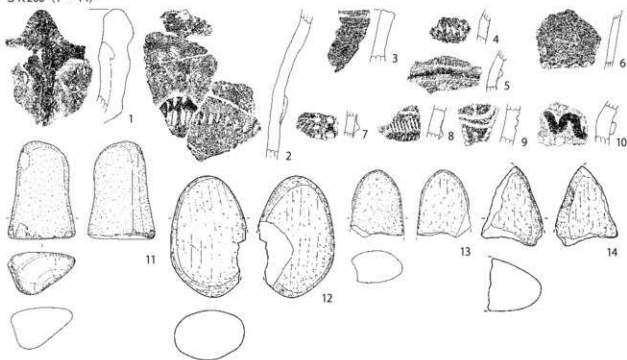


第 554 図 土壇出土遺物 (52)

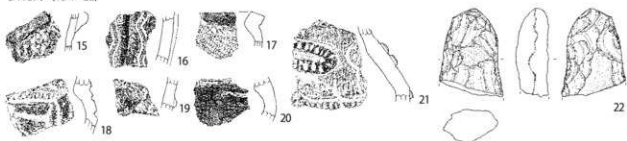


第 555 図 土壙出土遺物 (53)

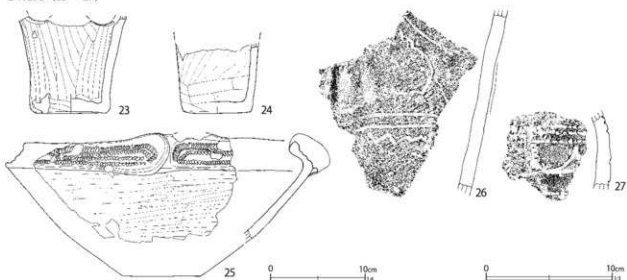
S K 266 (1 ~ 14)



S K 276 (15 ~ 22)



S K 293 (23 ~ 27)



第 556 図 土坑出土遺物 (54)

第83表 土壌一覽表 (縄文)

遺構番号	位置	平面形	長径方向	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	重複遺構
SK4	N・O-14	楕円形	N-64°-E	1.05	0.92	0.16	
SK5	O-14	円形		1.61	1.55	0.59	
SK6	O-14	円形		1.14	1.14	0.42	
SK7	O-14	隅丸方形	N-81°-E	1.22	1.20	0.26	SD6
SK8	N・O-14	不整形円形		1.74	1.67	0.38	SD6
SK9	N-13	円形		1.71	1.66	0.54	SD3
SK10	P-14	不整形円形	N-54°-E	1.24	1.04	0.58	
SK11	P-13	円形		1.18	1.14	0.36	
SK12	O・P-14	楕円形	N-81°-W	1.82	1.73	0.21	
SK13	P-13	楕円形	N-76°-W	1.50	1.38	0.36	
SK14	P-14	円形		1.38	1.36	0.29	
SK16	P-14	楕円形	N-90°	2.00	1.18	0.16	
SK18	Q-11	円形		1.00	0.97	0.16	
SK19	Q-13	楕円形	N-83°-E	1.14	0.84	0.38	SD8
SK20	欠番						
SK21	Q-10	楕円形	N-38°-W	0.94	(0.38)	0.15	
SK22	R-10	隅丸方形	N-65°-E	1.60	1.57	0.19	
SK23	Q-13	円形		1.22	1.15	0.23	
SK24	O-14	円形		1.62	(1.35)	0.27	SJ1
SK25	Q・R-14	円形		1.60	1.50	0.28	
SK26	R-11	楕円形	N-38°-W	1.62	(1.36)	0.22	
SK27	R-13	不整形円形	N-87°-W	1.36	1.19	0.25	
SK28	R-13	楕円形	N-50°-E	1.30	1.18	0.35	
SK29	R-12	不整形円形		1.05	1.04	0.21	
SK30	S-14	楕円形	N-64°-W	1.56	1.34	0.17	
SK31	R-14	楕円形	N-40°-E	0.95	0.79	0.13	
SK32	R-14	円形		1.45	1.41	0.15	
SK33	S-12	楕円形	N-83°-E	1.82	1.47	0.36	
SK34	R-14	楕円形	N-58°-W	1.35	1.14	0.42	
SK35	P・Q-12	不整形円形	N-20°-E	1.40	1.29	1.26	
SK36	T-12	隅丸方形	N-70°-E	1.12	1.10	0.14	
SK37	R・S-11	隅丸方形	N-55°-E	3.54	2.78	0.19	
SK38	R-15	円形		0.61	0.60	0.18	
SK39	R-15	円形		0.97	0.91	0.15	
SK40	Q-16	楕円形	N-36°-W	1.57	1.32	0.48	SD9
SK42	S-12	不整形円形	N-O°	2.78	2.42	0.12	
SK43	R-17	不整形円形	N-52°-W	1.00	0.96	0.17	
SK44	R-16	不整形円形	N-44°-W	0.96	0.74	0.72	
SK45	欠番						
SK46	R-17	楕円形	N-O°	1.60	1.50	0.17	
SK48	R-17	不整形	N-49°-W	0.80	0.75	0.26	
SK49	S-15	隅丸方形	N-60°-E	1.14	1.12	0.21	
SK50	S-15	楕円形	N-11°-W	1.92	1.30	0.19	
SK51	T-14	円形		0.76	0.74	0.16	
SK52	S-17	隅丸方形	N-40°-E	0.80	0.62	0.14	SK56
SK53	S-16	不整形		1.15	1.10	0.25	SK54
SK54	S-16	隅丸方形	N-O°	1.06	0.94	0.20	SK53
SK55	U-19	円形		1.54	1.52	0.40	
SK56	S-17	不整形		1.40	1.32	0.31	SK52・57
SK57	S-16・17	隅丸方形	N-77°-W	1.66	1.45	0.85	SK56

遺構番号	位置	平面形	長径方向	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	重複遺構
SK58	S-13	隅丸方形	N-38°-W	0.67	(0.27)	0.46	SJ2
SK59	U・V-20	不整形	N-19°-E	1.42	1.24	0.26	SK62
SK60	U-19・20	楕円形	N-40°-W	1.16	0.80	0.14	SK61
SK61	U-19・20	楕円形	N-40°-W	1.72	1.41	0.38	SK60
SK62	U・V-20	不整形	N-38°-E	1.25	(0.64)	0.17	SK59
SK63	U-14	楕円形	N-10°-E	1.03	0.70	0.32	SJ11
SK64	U-14	円形		1.22	1.20	0.11	SJ11
SK65	T-16	円形		1.42	1.38	0.15	
SK66	U-14	楕円形	N-40°-E	1.44	1.10	0.20	SJ11
SK67	T-17	楕円形	N-83°-W	1.26	1.14	0.11	
SK68	V-20	円形		1.33	1.30	0.32	SJ19
SK69	U-14	円形		0.74	0.70	0.22	SJ11
SK70	T-17	楕円形	N-12°-E	1.85	1.37	0.26	SK73
SK71	U-13	円形		0.86	0.81	0.22	
SK72	欠番						
SK73	T-17	円形		1.70	(0.70)	0.18	SK70
SK74	U-15	隅丸方形	N-23°-W	1.22	1.14	0.19	
SK75	U-19	円形		0.78	0.78	0.73	SJ7
SK76	U-15	楕円形	N-0°	1.13	0.48	0.20	SJ18
SK77	U-15	円形	N-85°-E	1.35	1.19	0.13	
SK78	T-16	不整形		1.76	1.76	0.21	SK79
SK79	T-16	不整形	N-65°-E	1.42	1.26	0.61	SK78
SK80	U-16	不明		(0.98)	(0.88)	0.04	
SK81	U・V-15	不整形	N-51°-W	0.95	(0.60)	0.73	SJ18 SK82
SK82	U-15	楕円形	N-0°	(1.52)	0.91	0.12	SJ18 SK81・83
SK83	U-15	隅丸方形	N-74°-W	1.45	0.87	0.19	SJ18 SK82
SK84	U・V-19	円形		0.40	0.38	0.29	
SK85	V-19	不整形	N-27°-W	1.30	1.22	0.31	
SK86	U・V-16	楕円形	N-23°-E	1.05	0.62	0.12	SJ23
SK87	W・X-21	不整形	N-0°	1.95	1.56	0.20	
SK88	X・Y-22	隅丸方形	N-10°-E	2.83	2.14	0.41	
SK89	X-23	円形	N-40°-W	1.13	(0.56)	0.31	
SK90	W-20	不整形	N-8°-E	1.49	1.38	1.10	
SK91	W-20・21	不整形		1.02	1.01	0.27	
SK92	X-22	楕円形	N-0°	1.42	1.08	0.40	
SK94	T-18	隅丸方形	N-80°-W	1.07	(0.45)	0.28	
SK95	U-17・18	楕円形	N-3°-E	0.87	(0.60)	0.13	SK93
SK96	U-18	楕円形	N-42°-W	0.73	0.58	0.17	
SK96	U-18	楕円形	N-31°-E	1.18	0.92	0.25	
SK97	U-18	楕円形	N-23°-W	1.19	0.93	0.26	
SK98	U-18	楕円形	N-55°-W	1.12	0.83	0.21	SK99
SK99	U-18	隅丸方形	N-48°-W	1.05	1.05	0.19	SK98
SK100	U-17	楕円形	N-30°-W	0.75	0.58	0.23	
SK101	U-17	不明	N-28°-W	(1.66)	(0.90)	0.22	
SK102	U-17	楕円形	N-30°-W	1.09	0.95	0.18	
SK103	Y-18	楕円形	N-57°-E	1.20	1.00	0.11	
SK104	Z-22・23	不整形	N-75°-E	1.44	1.38	0.19	
SK105	Y-22	楕円形	N-12°-E	1.37	(1.14)	0.27	SJ29・30
SK106	Y-22	楕円形	N-8°-E	1.60	1.20	0.22	SJ28・30
SK107	Y-22	楕円形	N-11°-W	1.40	1.18	0.23	SJ28・29・30
SK109	Y-23	楕円形	N-0°	1.40	1.22	0.72	SJ28

遺構番号	位置	平面形	長径方向	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	重複遺構
SK110	V-19	不明	N-18°-E	(0.95)	(0.80)	-	SJ48
SK112	Z-22	円形	N-68°-E	1.72	1.52	0.34	SJ30
SK113	X-20	不整円形	N-85°-E	0.74	0.65	0.76	SJ47
SK114	Y-18	不整円形	N-77°-E	1.44	(1.40)	0.60	SJ48 SK115
SK115	Y-18	不明	N-63°-E	0.74	(0.70)	0.58	SJ48 SK114
SK116	W-16	円形		0.96	0.95	0.17	
SK117	W-16	楕円形	N-5°-E	0.97	0.85	0.21	
SK118	W-16	円形	N-55°-W	1.00	0.94	0.16	
SK119	W-16	楕円形	N-85°-E	1.50	1.34	0.15	
SK120	X-16	楕円形	N-65°-W	1.16	1.02	0.24	
SK121	X-16	円形	N-75°-E	0.74	0.72	0.20	
SK122	X-16・17	不明	N-45°-W			0.17	
SK123	X-17	不整円形	N-80°-W	1.55	1.50	0.53	SJ63
SK124	X-17	円形	N-0°	1.10	1.04	0.24	
SK125	X-16	楕円形	N-78°-E	0.96	0.68	0.22	
SK126	W-16	楕円形	N-50°-E	1.76	0.96	0.27	
SK127	X-17	隅丸方形	N-41°-E	1.63	1.34	0.29	SJ63
SK128	X-16	楕円形	N-63°-W	1.41	1.24	0.32	
SK129	W-17	円形		0.68	0.68	0.14	SJ63
SK130	W-17	楕円形	N-7°-E	1.15	1.00	0.17	
SK131	Y-16	楕円形	N-71°-W	0.95	0.86	0.28	
SK132	Y-16	不整円形	N-68°-W	1.04	0.90	0.21	
SK133	Y-17	不整形	N-65°-E	1.36	1.07	0.24	
SK134	Y-16・17	隅丸方形	N-64°-W	1.22	1.15	0.84	
SK135	Y-17	楕円形	N-0°	0.98	0.83	0.28	
SK136	X-20	楕円形	N-82°-W	1.59	1.31	0.18	
SK137	X-20	楕円形	N-63°-W	1.26	0.94	0.14	
SK138	X-20	隅丸方形	N-90°	0.84	0.73	0.15	
SK139	X-17	楕円形	N-30°-W	1.14	0.98	0.35	SJ63
SK140	X-17	不整円形	N-18°-E	1.52	1.39	0.17	SJ63
SK141	W-17	楕円形	N-66°-W	0.88	0.68	0.15	SJ63
SK142	X-17	不整円形	N-10°-W	1.37	1.28	0.50	SJ63
SK143	W-17	隅丸方形	N-80°-E	0.80	0.54	0.17	
SK144	Z-17	楕円形	N-28°-E	1.80	1.33	0.81	
SK145	Y-16	円形		1.44	1.44	0.36	Y16GP1
SK146	W・X-17	楕円形	N-0°	1.47	1.20	0.35	
SK147	X-20	円形		0.65	0.64	0.22	
SK148	X-20	楕円形	N-38°-W	0.94	0.80	0.13	SK149
SK149	X-20	楕円形	N-5°-W	0.83	0.72	0.16	SK148
SK151	Y-20	円形		1.60	1.54	0.18	SJ74
SK152	X-20	楕円形	N-75°-W	(1.70)	1.35	0.19	SJ54
SK154	AA-18	楕円形	N-30°-W	0.90	0.64	0.42	
SK156	W-17	楕円形	N-17°-W	2.13	1.91	0.89	SJ62
SK157	Y-20	円形		0.87	0.84	0.32	
SK158	W-18	楕円形	N-7°-W	1.14	1.04	0.25	
SK159	W-15・16	不整円形	N-58°-W	2.35	(1.62)	0.24	SJ57
SK160	X-18	楕円形	N-0°	0.80	0.68	0.24	
SK161	X-17・18	不整円形	N-35°-W	1.40	1.25	0.44	
SK162	Y-17	不明		(0.70)	(0.68)	-	
SK163	X-17	楕円形	N-30°-W	1.20	1.02	0.38	SJ63
SK164	W-17	不整円形	N-80°-E	0.76	0.72	0.35	SJ62

遺構番号	位置	平面形	長径方向	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	重複遺構
SK165	Y-21	円形		2.46	2.16	0.52	SJ76・81 SK182
SK166	W-17	不整形円形	N-0°	1.10	1.08	0.71	SJ62
SK167	Z-19	隅丸方形	N-17°-W	1.74	0.84	0.37	SD23
SK168	AA-19	不整形円形	N-90°	1.18	1.04	(1.70)	
SK169	Y-17	隅丸方形	N-48°-E	0.82	0.64	0.28	SK290
SK170	Y-21	楕円形	N-60°-E	1.58	(1.40)	0.28	
SK171	X-18	不整形円形	N-0°	1.52	1.52	0.44	SK178
SK172	X-17・18	楕円形	N-70°-E	1.72	1.5	0.55	
SK173	X・Y-19	楕円形	N-25°-W	0.62	0.55	0.25	
SK174	Y-19	楕円形	N-90°	1.18	1.06	0.38	SK206
SK175	Y-19	楕円形	N-61°-W	1.08	0.92	0.22	SK203
SK176	Y-19	楕円形	N-90°	0.94	0.80	0.67	SK177
SK177	Y-19	不整形楕円形	N-8°-E	1.25	1.00	0.21	SK176
SK178	X-17・18	不整形	N-32°-E	0.85	0.76	0.25	SK171
SK179	X-17・18	円形	N-90°	0.84	0.80	0.32	
SK180	X-18	楕円形	N-15°-W	1.04	0.88	0.36	
SK181	X-19	不整形円形	N-64°-E	1.54	1.48	0.41	
SK182	Y-21	楕円形	N-21°-E	1.09	0.90	0.40	SJ81 SK165
SK183	X-17	不整形	N-31°-W	1.11	1.00	0.55	
SK184	Y-19	楕円形	N-47°-W	1.54	1.13	0.33	SJ73
SK185	欠番						
SK186	Y-17	不整形円形	N-66°-W	0.77	0.72	0.39	SK290
SK187	X・Y-19	楕円形	N-21°-E	1.67	1.20	0.19	SJ73
SK188	W-18	楕円形	N-20°-E	1.20	1.10	0.46	SJ65
SK189	X-17	隅丸方形	N-22°-E	1.53	1.19	0.48	
SK190	X-18	不整形	N-43°-W	1.88	1.40	0.49	SJ80
SK191	X-19	円形	N-31°-W	0.84	(0.32)	0.34	SJ70
SK192	X-19	楕円形	N-36°-W	0.66	0.58	0.16	
SK193	Y-19	楕円形	N-53°-E	1.12	0.77	0.72	SJ73 SK194
SK194	X・Y-19・20	楕円形	N-8°-E	1.05	0.81	0.65	SJ73 SK193
SK195	X-16	楕円形	N-15°-E	0.95	(0.41)	0.57	SJ60
SK196	X-18	円形		0.98	0.96	0.32	SJ66
SK197	W-18	楕円形	N-26°-W	0.96	0.86	0.27	SJ71
SK198	Z-19	楕円形	N-40°-W	1.25	1.00	0.45	
SK199	X-18	楕円形	N-70°-W	1.35	1.12	0.23	SJ66
SK200	Y-18	不整形円形	N-76°-E	1.13	1.05	0.30	
SK201	Y-18	楕円形	N-0°	1.33	0.96	0.45	
SK202	Z-19	楕円形	N-28°-W	1.03	0.83	0.19	
SK203	Y-19	不整形円形	N-6°-E	0.90	0.82	0.25	SK175
SK204	Y-19	楕円形	N-49°-W	1.22	0.86	0.28	
SK205	Y-19	楕円形	N-14°-W	1.14	0.97	0.61	
SK206	Y-19	楕円形	N-15°-E	0.96	0.90	0.67	SK174
SK207	Y-19	隅丸方形	N-72°-W	1.40	0.84	0.11	
SK208	W-19	隅丸方形	N-35°-E	0.68	0.52	0.39	SJ67
SK210	Z-19	楕円形	N-16°-W	1.30	1.12	0.15	SK211
SK211	Z-19	楕円形	N-16°-W	1.25	1.12	0.55	SK210
SK212	AA-19	隅丸方形	N-45°-W	0.67	0.61	1.10	
SK218	AA-19	隅丸方形	N-27°-W	1.12	1.10	0.52	
SK219	AA-18	不整形円形	N-41°-W	1.20	1.08	0.39	
SK224	欠番						
SK225	Y-19	隅丸方形	N-15°-W	1.00	0.98	0.52	SJ79

遺構番号	位置	平面形	長径方向	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	重複遺構
SK227	Y-19	槽円形	N-43°-E	0.75	0.64	0.65	SJ79 SK228
SK228	Y-19	槽円形	N-22°-E	1.48	0.84	0.39	SJ79 SK227
SK229	Y-19	隅丸方形	N-70°-W	0.60	0.55	0.47	SJ79
SK230	Y-19	槽円形	N-15°-W	(0.96)	0.84	0.28	SJ79 SK231
SK231	Y-19	槽円形	N-70°-E	1.00	0.86	0.29	SJ79 SK230
SK232	Y・Z-19・20	円形		1.58	1.50	0.47	SJ79 SK233
SK233	Y-19・20	円形		1.14	1.10	0.31	SJ79 SK232
SK235	X-18	隅丸方形	N-53°-W	2.00	1.67	0.47	SJ80
SK236	Y-20	隅丸方形	N-26°-W	1.14	1.00	0.64	SJ50・75
SK237	Z-20	不整形	N-20°-W	1.78	1.75	0.25	SJ75 SK241
SK239	Z-22	隅丸長方形	N-O°	1.32	0.96	0.35	SJ78 SK238
SK240	Y-22	隅丸方形	N-5°-E	0.90	0.87	0.29	SJ83
SK241	Z-20	円形		1.10	(0.64)	0.25	SK237
SK242	Z-20	円形		0.61	0.61	0.09	SJ90 SK243
SK243	Z-20	隅丸方形	N-51°-E	0.94	0.85	0.22	SJ90 SK242
SK244	Y-21	槽円形	N-90°	1.74	1.54	0.33	SJ81
SK245	Z-21	不整形	N-4°-E	1.39	1.30	0.54	SJ78・81
SK246	Y・Z-21・22	不整形	N-34°-W	1.04	1.00	0.25	SJ81・83
SK247	Y・Z-22	槽円形	N-22°-W	1.16	0.80	0.27	SJ83
SK248	Z-21	槽円形	N-13°-E	1.95	1.40	0.93	SJ81 SK289
SK249	Z-20・21	隅丸方形	N-84°-W	0.86	0.74	0.99	SJ76
SK250	Z-21	槽円形	N-45°-E	0.70	0.61	0.92	SJ76
SK251	Z-21	隅丸方形	N-34°-W	0.96	0.74	1.24	SJ76 SK252
SK252	Z-21	槽円形	N-59°-E	0.86	0.76	0.79	SJ76 SK251
SK253	Z-20	不整形	N-48°-W	1.35	1.20	0.42	SJ75・76・90
SK254	Z-22	不整形	N-O°	0.92	0.66	0.21	SJ85 SK288・291
SK255	Z-21	隅丸方形	N-30°-W	0.58	(0.58)	0.16	SJ85 SK256
SK256	Z-21	不整形	N-30°-E	0.88	0.85	0.88	SJ85 SK255
SK257	Z-19	円形		0.70	0.70	0.20	
SK258	Z-19	円形		0.58	0.52	0.83	
SK259	AA-20	不整形	N-69°-W	1.06	0.96	0.14	SJ77
SK260	Z-19	槽円形	N-90°	1.40	(1.38)	0.30	SJ82
SK261	Y-21	槽円形	N-46°-E	1.46	1.06	0.19	SJ76 SJ88
SK262	Z-21	不整形	N-18°-E	1.08	1.06	0.16	
SK263	Z-20	不整形	N-70°-E	1.62	(0.70)	0.33	SJ82
SK264	Z-20	不整形	N-43°-E	1.56	1.32	0.20	SJ77
SK265	Z-21	隅丸方形	N-35°-W	1.06	0.96	0.37	SJ52 SK266
SK266	Z-21	不明		-	-	0.18	SJ52 SK265
SK267	AA-20	槽円形	N-35°-W	1.30	1.18	1.05	SJ86
SK268	Y-22	隅丸方形	N-90°	0.98	0.84	0.22	SJ83
SK276	Z-22	円形	N-90°	0.64	0.54	0.28	
SK284	欠番						
SK287	Z-20	槽円形	N-19°-W	(1.40)	1.30	0.39	SJ90
SK288	Z-21	隅丸方形	N-83°-E	0.60	0.58	0.29	SJ85 SK254・291
SK289	Z-21	隅丸方形	N-40°-W	1.34	(1.34)	0.15	SJ78・81・85 SK248
SK290	Y-17	不整形		0.66	0.44	0.23	SK169・186
SK291	Z-21	不明		-	-	0.09	SJ85 SK254・288
SK292	Y-20	不明		(2.00)	(0.92)	0.15	SJ50・75・76・88
SK293	Y-22	槽円形	N-43°-E	0.7	0.62	0.24	SJ29

第84表 土城出土石器一覧表

種別	番号	出土位置	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
478	5	SK4	磨石	頁岩	[6.7]	[3.8]	[1.8]	52.4	
478	18	SK6	敲石	緑色岩	[7.0]	3.7	2.4	83.0	
479	27	SK13	打製石斧	ホルンフェルス	[8.9]	5.6	1.3	75.4	
479	30	SK14	敲石	安山岩	[6.2]	4.0	2.5	97.3	
483	2	SK30	磨石	安山岩	[4.1]	[7.4]	4.3	126.0	
483	23	SK33	磨石	安山岩	5.4	3.8	2.7	61.8	
483	24	SK33	敲石	緑色岩	[9.1]	3.7	3.4	178.6	
483	31	SK34	磨石	安山岩	[3.1]	[2.4]	[3.1]	19.0	
487	10	SK35	磨石	安山岩	[2.8]	[4.4]	[2.6]	25.5	
487	32	SK44	磨石	安山岩	[4.2]	[4.2]	[2.7]	22.9	
488	19	SK55	石鏃	黒曜石	2.1	[1.1]	0.7	1.0	
488	23	SK56	敲石	砂岩	[6.8]	4.7	3.2	134.5	
488	35	SK60	磨石	砂岩	[3.0]	[4.1]	[1.0]	16.0	
489	9	SK64	砥石	安山岩	7.1	5.2	0.9	45.2	
489	11	SK63	磨石	安山岩	3.4	3.8	2.5	22.5	
499	22	SK75	磨製石斧	緑色岩	13.5	4.7	3.3	342.4	
500	47	SK70	打製石斧	達賀頁岩	[7.6]	[4.8]	1.5	48.5	
500	48	SK70	砥石	安山岩	[6.6]	[6.1]	2.1	57.2	
502	29	SK79	磨製石斧	緑色岩	[8.1]	4.0	2.7	155.5	
502	30	SK79	磨石	砂岩	[7.9]	[4.7]	[0.9]	41.3	
503	31	SK90	磨石	安山岩	8.5	7.0	3.9	314.6	
503	32	SK90	磨石	砂岩	[10.3]	4.2	3.1	122.2	
504	34	SK87	石鏃	黒曜石	[1.8]	[1.6]	0.4	0.7	
504	35	SK87	くさび形石器	チャート	2.4	1.4	0.7	2.5	
504	36	SK87	石鏃	安山岩	[10.4]	[8.8]	[3.2]	259.0	
505	33	SK88	石鏃	玉髄	1.6	1.2	0.5	0.9	
505	34	SK88	石鏃	黒曜石	[1.0]	[0.8]	0.4	0.2	
505	35	SK88	垂飾	滑石	[1.1]	[1.3]	0.6	1.3	
505	36	SK88	スタンプ形石器	安山岩	7.8	4.9	4.1	176.6	
505	37	SK88	磨石	安山岩	6.8	5.5	3.4	176.6	
505	47	SK92	打製石斧	ホルンフェルス	6.0	5.6	1.7	53.0	
509	38	SK114	磨石	砂岩	[7.9]	5.5	2.9	184.0	
511	20	SK110	敲石	緑色岩	15.1	4.4	3.9	415.3	
511	38	SK119	打製石斧	ホルンフェルス	8.2	4.7	1.6	73.2	
512	24	SK123	磨石	頁岩	[5.3]	3.8	1.8	55.9	
512	32	SK129	磨石	安山岩	6.7	5.4	2.6	88.4	
512	52	SK127	磨石	安山岩	6.6	5.3	3.2	83.7	
512	53	SK127	石鏃	安山岩	[5.4]	[5.9]	[4.0]	84.5	
515	6	SK128	磨石	安山岩	[5.0]	[4.2]	3.1	49.0	
515	7	SK128	スタンプ形石器	砂岩	8.1	5.8	3.4	168.5	
515	21	SK131	磨石	安山岩	[6.6]	[3.7]	[1.9]	68.5	
515	32	SK134	打製石斧	黒色頁岩	[5.7]	4.9	1.6	55.3	
515	33	SK134	石鏃	緑泥片岩	[9.1]	[7.7]	3.9	301.8	
516	24	SK138	スクレイパー	ホルンフェルス	5.2	3.2	0.7	10.5	
516	29	SK139	軽石	安山岩	4.3	5.7	1.8	26.3	
516	38	SK145	くさび形石器	チャート	2.7	1.8	0.6	3.4	
516	39	SK145	敲石	砂岩	7.9	3.6	3.5	162.7	
517	18	SK142	打製石斧	ホルンフェルス	9.9	3.9	1.8	77.8	
517	19	SK142	磨石	安山岩	[2.4]	[3.0]	2.2	16.2	
517	20	SK142	磨石	砂岩	[4.1]	[3.8]	[3.1]	45.2	
517	38	SK144	敲石	砂岩	[6.7]	2.9	2.2	63.0	
522	19	SK152	打製石斧	砂岩	[3.8]	4.4	1.1	21.8	
522	20	SK157	磨石	安山岩	7.4	5.7	3.5	190.0	
522	36	SK159	打製石斧	黒色頁岩	[6.1]	[5.3]	1.7	60.0	
523	32	SK156	敲石	砂岩	[6.0]	4.1	3.1	103.9	
523	33	SK156	磨石	安山岩	[4.5]	[2.7]	[2.6]	23.1	
523	34	SK156	軽石類	安山岩	3.0	2.7	1.8	7.8	
524	26	SK166	磨石	砂岩	[4.0]	4.2	3.3	64.5	
525	10	SK164	敲石	砂岩	[6.7]	[6.6]	[6.3]	399.6	

棟目	番号	出土位置	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
525	11	SK164	磨石	安山岩	[9.9]	7.9	5.2	575.5	
527	47	SK165	石礮	頁岩	1.4	1.4	0.5	0.8	
527	48	SK165	石礮	黒曜石	1.6	[1.4]	0.3	0.4	
527	49	SK165	磨製石斧	珪質頁岩	8.7	3.4	1.7	66.4	
527	50	SK165	砥石	砂岩	9.0	2.5	2.0	62.3	
527	51	SK165	砥石	緑色岩	[7.8]	[3.9]	2.2	107.2	
527	52	SK165	スタンプ形石器	安山岩	7.5	4.6	3.2	174.3	
527	53	SK165	スタンプ形石器	砂岩	8.0	4.1	3.2	145.9	
527	54	SK165	砥石	緑泥片岩	[8.7]	3.9	0.9	43.3	
527	55	SK165	磨石	砂岩	[8.4]	[8.7]	4.4	263.4	
527	56	SK165	磨石	砂岩	8.4	5.6	4.3	273.7	
527	57	SK165	磨石	頁岩	9.5	6.3	5.0	335.0	
527	58	SK165	磨石	安山岩	[5.4]	5.3	3.1	92.4	
527	59	SK165	石皿	緑泥片岩	[8.6]	[9.8]	[2.7]	430.3	
528	38	SK172	打製石斧	ホルンフェルス	9.3	4.5	1.8	87.1	
528	39	SK172	石皿	砂岩	[6.5]	[5.6]	5.5	243.2	
529	24	SK176・177	砥石	緑色岩	[8.3]	[2.2]	3.1	86.6	
529	30	SK180	石皿	片岩	[9.7]	[9.4]	[2.7]	199.2	
529	42	SK181	打製石斧	緑泥片岩	11.3	4.1	1.9	102.8	
532	17	SK188	石皿	緑泥片岩	15.3	7.6	2.5	355.5	
532	39	SK190	打製石斧	砂岩	7.6	6.3	1.3	80.0	
533	10	SK193	石礮	黒曜石	[1.8]	[1.6]	0.4	1.0	
533	12	SK194	打製石斧	ホルンフェルス	10.3	5.5	2.0	114.3	
533	13	SK194	石皿	緑泥片岩	[4.4]	[7.0]	[2.7]	87.3	
538	10	SK201	砥石	頁岩	11.9	4.8	3.8	202.3	
538	36	SK211	石皿	緑泥片岩	9.7	4.7	2.1	107.6	
539	37	SK235	スクレイパー	黒曜石	3.5	2.5	1.2	10.2	
540	29	SK238	打製石斧	砂岩	3.1	4.1	1.5	23.1	
540	30	SK237	打製石斧	ホルンフェルス	8.6	5.7	2.2	90.6	
540	31	SK237	磨石	安山岩	[5.9]	[6.8]	5.3	203.6	
541	7	SK241	リフレ	黒曜石	2.1	2.2	0.6	1.9	
541	8	SK241	砥石	緑色岩	[7.7]	4.4	2.5	166.0	
541	15	SK243	磨石	砂岩	[5.8]	[2.7]	3.1	26.0	
541	40	SK245	磨石	安山岩	[5.9]	[6.3]	[4.3]	131.3	
546	35	SK254	打製石斧	砂岩	[3.9]	3.6	1.7	24.4	
549	35	SK247	軽石	安山岩	3.7	3.8	1.9	10.3	
551	34	SK248	砥石	緑色岩	12.0	3.7	3.1	225.5	
551	35	SK248	磨石	砂岩	[4.7]	[3.2]	[4.3]	67.9	
551	36	SK248	石皿	砂岩	[12.4]	[10.7]	5.7	778.7	
552	39	SK268	磨製石斧	緑色岩	7.7	4.5	4.8	212.4	
556	11	SK266	スタンプ形石器	砂岩	7.8	5.4	3.4	176.3	
556	12	SK266	磨石	砂岩	9.6	[6.1]	4.2	291.8	
556	13	SK266	砥石	安山岩	[5.4]	4.3	2.8	70.9	
556	14	SK266	磨石	安山岩	[6.3]	[4.9]	[4.2]	121.2	
556	25	SK276	打製石斧	ホルンフェルス	20.0	5.1	2.6	109.2	

(5) グリッドビット

調査区内からは、ビットと呼ばれる小穴状の遺構が検出されている。縄文時代のビットは、調査区内のR・S-14～18グリッドに分布域があった(第7・8図)。特にS-14グリッド内と、S-17・18グリッド内からは、一定のまとまりを持ってグリッドビットが検出された。それぞれ、円形に近い範囲が確認できた。周辺からは柱穴と

炉のみの第6号住居跡も検出され、それらのグリッドビットの分布範囲が住居跡であった可能性もある。しかしながら、炉が検出されなかったことや遺物が出土しなかったことからグリッドビットとして扱った。

調査区北西端や、南西端のグリッドビットは近世の所産である。

(6) グリッド出土遺物

遺構に伴わなかった土器・土製品・石器である。

グリッド出土土器

縄文時代の遺構外から検出された土器を一括してまとめた。

第Ⅰ群土器

前期の土器群を一括する。

第1類土器 (第558図6～18)

前期中葉の黒浜式土器である。胎土に繊維が含まれている。6～8・10は半截竹管文などで沈線が施文される。6は爪形文が施される。9・11～18は地文である縄文が施文される。9は附加条縄文である。

第2類土器 (第558図19～34)

前期後葉の諸磯式土器である。19～21・26は諸磯a式土器である。19・21は爪形文が施文される。22～25は諸磯b式土器である。22は爪形文が施される。23～25は浮線文が施される。29～31は諸磯c式土器である。集合沈線と貼付文が施文される。33は浅鉢形土器である。34は無文の深鉢形土器である。27・28は地文のみ施文される。

第Ⅱ群土器

中期前葉・中葉の土器群を一括する。

第1類土器 (第558図35)

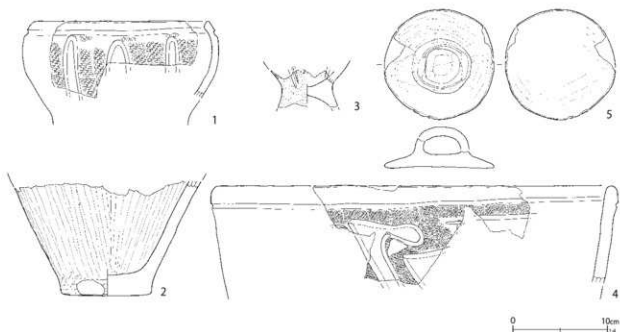
中期前葉の土器である。35は口縁部下の文様が三角形状に区画され、その中央に印刻文が施文される。

第2類土器 (第558図36～44)

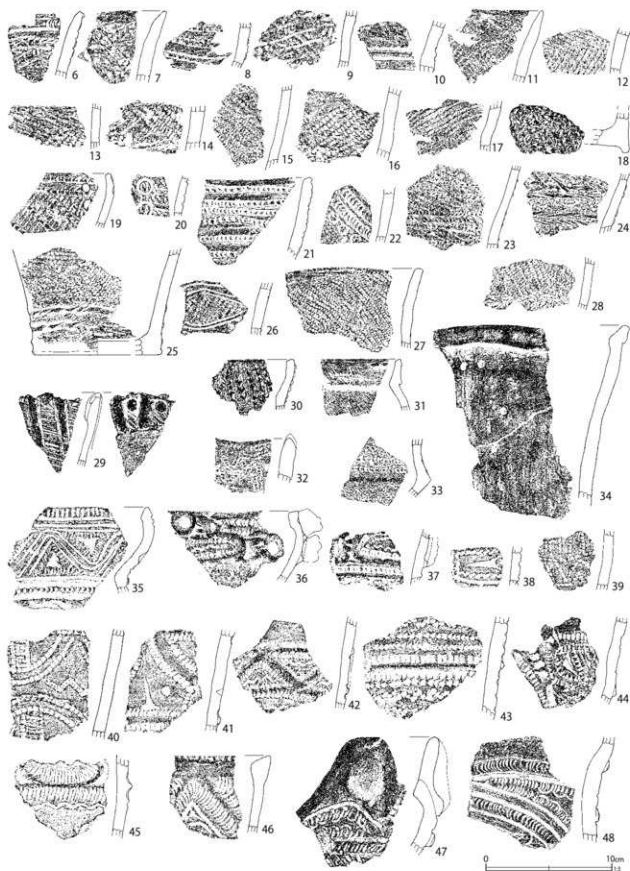
角押文やペン先状の三角押文が施文される勝坂式系土器である。三叉文状の印刻文が施文されるものもある。38・39は細かい角押文や三角押文が施されており、貉沢式土器である。他は爪形文とそれに沿ってやや幅が広い角押文や三角押文が施文される。新道式に相当する土器群である。勝坂式古段階である。

第3類土器 (第558図45～48)

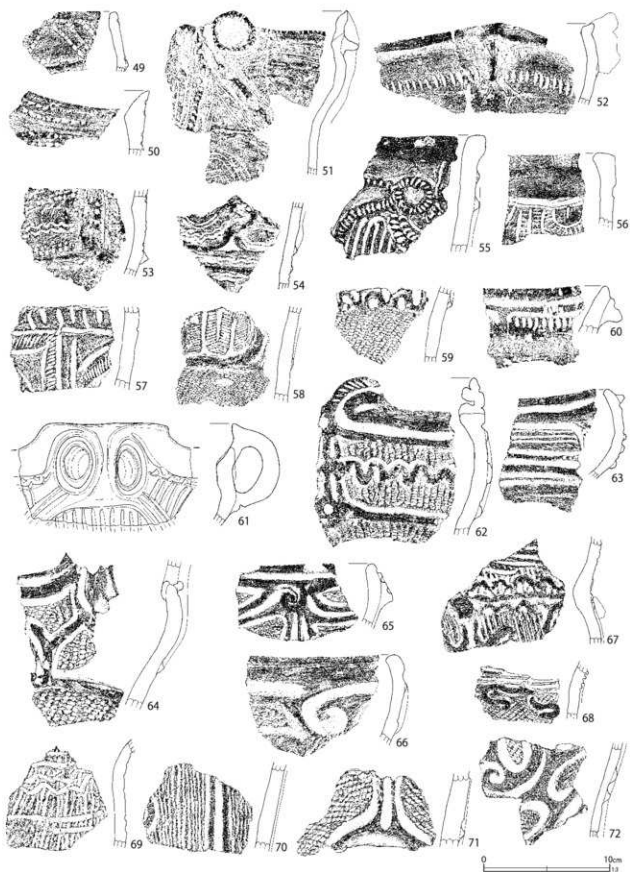
隆帯に沿って、キャタピラ状爪形文が施文され、それに沿って細沈線で波状文が施文される勝坂式系土器である。新しいものは隆帯に沿って半截竹管で沈線が施され、それに沿って爪形文、蓮華文が施文される。藤内式に相当する土器群である。



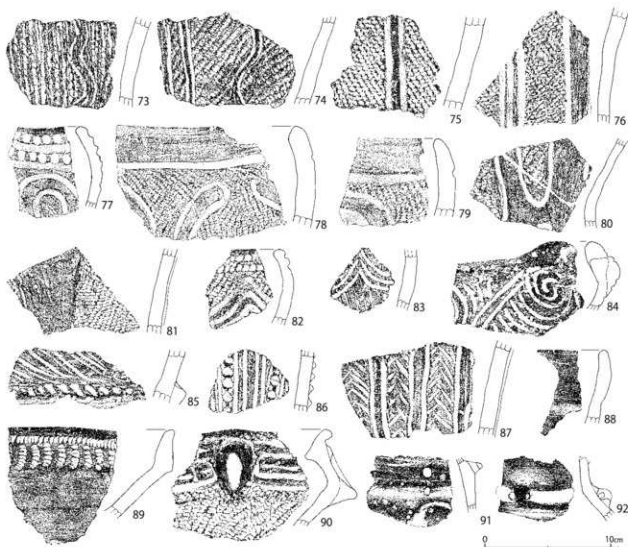
第557図 グリッド出土遺物(1)



第 558 図 グリッド出土遺物 (2)



第 559 図 グリッド出土遺物 (3)



第560図 グリッド出土遺物(4)

勝坂式中段階である。

第4類土器 (第559図49～54)

阿玉台式系の土器を一括する。49・50は複列の角押文が施文される。52は幅広の爪形文が施文される。阿玉台Ⅱ式からⅢ式に相当する。

第5類土器 (第559図55～59)

隆帯に刻みを持ち隆帯脇に沈線が施文される勝坂式系の土器である。隆帯に代わって沈線が施されるなど、文様が簡略化されるものがある。井戸尻式に相当する。勝坂式終末である。

第6類土器 (第559図60)

中峠式系の土器を一括する。口縁が開く朝顔形の器形で、口唇部が肥厚している。勝坂式終末期で、加曾利E式期に1部平行する。

第Ⅲ群土器

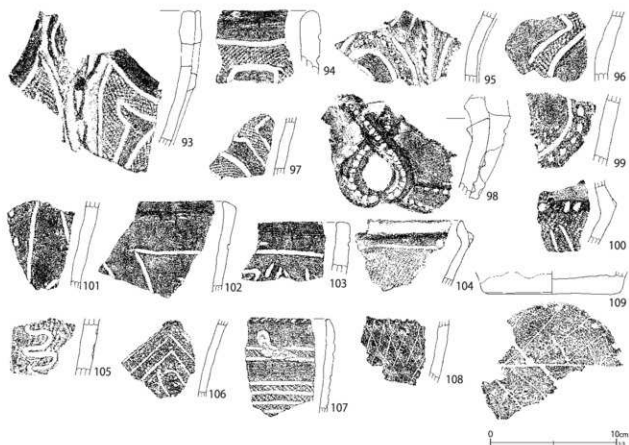
中期後葉の土器群を一括する。加曾利E式期に相当する。

第1類土器 (第557図2、第559図61～72、第560図73～76)

加曾利E式系のキャリパー形の深鉢形土器を一括する。2は無文の底部で、中期末葉と考えられる。奈良時代の第5号住居跡からほぼ床面直上から出土した。61は眼鏡状突起が貼付されている。69は頸部分で、沈線で波状文などが施文されている。72は大木式系の様相を持っている。

第2類土器 (第557図1、第560図73～76)

口縁部文様帯が施文されない土器である。81は微隆起状の隆帯が施文され中期末葉の土器である。



第561図 グリッド出土遺物(5)

第3類土器 (第560図72・82～87)

異系統の土器を一括する。72は大木式系の土器である。82・83は連弧文系の土器である。84～87は曽利式系の土器である。

第4類土器 (第557図3、第560図88～92)

深鉢形土器以外の器形を一括する。浅鉢形土器については中期中葉や後期のものも一括した。3は台付鉢の台部分である。88～90は浅鉢形土器である。88は口縁部に赤彩が鮮やかに残る。胴部には黒色の彩色が残っている。89は肩部に91は有孔罫付き土器、92は壺形土器である。

第IV群土器

後期の土器を一括する。

第1類土器 (第557図4・第561図93～103)

後期初頭の称名寺式土器を一括する。4・93～97・100は文様内に単節などの縄文が充填されている。98・99・101・103は列点文が施文さ

れる。102の沈線内は無文である。称名寺Ⅰc～Ⅱ式に相当する。

第2類土器 (第561図104～106)

後期前葉の堀之内式土器を一括する。104は口縁が肥厚する。106は文様内に単節LRの縄文が充填される。104・105は堀之内Ⅰ式、106は堀之内Ⅱ式である。

第3類土器 (第561図107・108)

後期中葉の加曽利B式土器を一括する。107は精製土器の口縁部である。平行沈線が施文され、沈線内には単節RLの縄文が充填されている。108は粗製土器で格子目に沈線が施文される。加曽利BⅠ式である。

第4類土器 (第557図5、第561図109)

5は土製の蓋である。つまみ部の破損部が残存する。109は深鉢形土器の底部に木葉痕が明瞭に残されている。